

授業科目名： 英語のしくみ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高野祐二 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ： 人間言語としての英語のしくみについて言語学の観点から学ぶ。</p> <p>到達目標： 音声、文、コミュニケーション、歴史の観点から英語の特徴を理解できる。</p>			
授業の概要			
<p>言語とは何か、そして英語とはどのような言語なのかについて、音声、文、コミュニケーション、歴史の観点から考える。授業は講義形式で行うが、授業の途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。</p>			
授業計画			
<p>第1回： 言語とは何か</p> <p>第2回： 音声のしくみ（アクセント）</p> <p>第3回： 音声のしくみ（アクセント、リズム）</p> <p>第4回： 音声のしくみ（英語の子音）</p> <p>第5回： 音声のしくみ（英語の母音）</p> <p>第6回： 英語の歴史</p> <p>第7回： 試験1、まとめ</p> <p>第8回： 文のしくみ（文に関する知識）</p> <p>第9回： 文のしくみ（構成素と統語範疇）</p> <p>第10回： 文のしくみ（統語構造）</p> <p>第11回： 文のしくみ（さまざまな統語構造）</p> <p>第12回： 文のしくみ（統語構造と多義性）</p> <p>第13回： コミュニケーションのしくみ</p> <p>第14回： 試験2、まとめ</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
はじめての英語学 改訂版（長谷川瑞穂 編著、研究社）			
学生に対する評価			
試験1（50%）、試験2（50%）			

授業科目名： 国際社会の中の英語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋広司、種村俊介、柴田里実 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 国際語としての英語、英語と社会、英語と文化、世界の英語、言語習得と英語学習・英語教育の観点から国際社会における英語の役割と諸相について理解できる。			
授業の概要 国際語としての英語の役割と諸相について理解することを目指す。国際語とは何か、そして英語がグローバル社会において国際語としてどのような役割を果たし、どのように使われているかを、社会的、文化的および教育・学習的観点から考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンス～世界の言語事情と国際英語（担当：橋広司） 第2回：英語の社会文化史－英語が国際語になるまで（担当：橋広司） 第3回：国際英語論と英語帝国主義論（担当：橋広司） 第4回：言語の多様性と英語の多様性（担当：橋広司） 第5回：アジア諸英語（Asian Englishes）と「日本英語」（担当：橋広司） 第6回：日本社会と英語 1（戦前～昭和）（担当：橋広司） 第7回：日本社会と英語 2（平成・令和）（担当：橋広司） 第8回：まとめと試験1（担当：橋広司） 第9回：国際化と英語学習（担当：種村俊介） 第10回：英語と語彙学習（担当：種村俊介） 第11回：英語とリーディング、試験2（担当：種村俊介） 第12回：英語の習得：母語と第二言語（担当：柴田里実） 第13回：英語教育と個人差要因（担当：柴田里実） 第14回：英語教育と脳科学、試験3（担当：柴田里実） 定期試験は実施しない。			
テキスト なし。			
参考書・参考資料等 『はじめての英語学』（改訂版）（長谷川瑞穂 編著、研究社、2014） 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			

試験 1 (60%) 試験 2 (20%) 試験 3 (20%)

授業科目名： 英語構造研究 (1)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高野祐二 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：生成文法の統語理論の観点から英語の文構成のメカニズムについて学ぶ。</p> <p>到達目標：統語構造の重要性を理解し、統語構造に基づいて基本的な言語データを分析できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語の文構成において基本となる統語構造の重要性と性質を理解することを目標に、そこで必要になる構成素、統語範疇、句構造規則、単文と複文の区別といった専門的概念と規則について学ぶ。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 言語の知識と統語論研究</p> <p>第2回： 構成素と統語範疇</p> <p>第3回： 統語構造</p> <p>第4回： 句構造規則 (1) : S, NP, VP, PP</p> <p>第5回： 統語構造と多義性</p> <p>第6回： 句構造規則 (2) : AP, AdvP</p> <p>第7回： 試験1、まとめ</p> <p>第8回： 句構造規則 (3) : 等位接続構造</p> <p>第9回： 句構造規則 (4) : 複文の構造</p> <p>第10回： 句構造規則 (5) : 埋め込み節の位置</p> <p>第11回： 句構造規則 (6) : 不定詞節</p> <p>第12回： 句構造規則 (7) : 小節</p> <p>第13回： 再帰規則としての句構造規則</p> <p>第14回： 試験2、まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>Introductory Syntax: Lecture Notes (Chapters 1-6) (C.T. James Huang著、PDF資料)</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験1 (40%)、試験2 (40%)、課題 (20%)</p>			

授業科目名： 英米文学の世界	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田村 章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 （１）言語と文化が交差する文学という芸術ジャンルを学ぶ意義を理解する。 （２）英語文学における詩、劇、小説の代表作について理解する。 （３）基本的な文学用語について理解する。			
授業の概要 英語で書かれた代表的な文学作品に親しみながら、英語圏の文化への理解を深めていく。詩、劇、小説という３つのジャンルの作品を言語と文化が交差する場として理解していく。そのため、個々の作品について、表現方法と時代背景という二つの側面から考えていくことになる。			
授業計画 第1回：文学とは何か－英語文学を学ぶ意義①－読書感想文から文学研究へ 第2回：文学とは何か－英語文学を学ぶ意義②－文学に感動するメカニズムを探る 第3回：文学とは何か－英語文学を学ぶ意義③－文学の様々な研究方法 第4回：英語文学のジャンル、シェイクスピアの生涯と諸作品 第5回：『ロミオとジュリエット』を鑑賞する①－どのような作品か 第6回：『ロミオとジュリエット』を鑑賞する②－表現技法を研究する 第7回：英詩を鑑賞する①－英詩の技法 第8回：授業内試験①、英詩を鑑賞する②－英詩の代表作品 第9回：英詩を鑑賞する③－英詩のことば 第10回：イギリス小説を読む①－イギリス小説の特性と歴史 第11回：イギリス小説を読む②－『ジェイン・エア』の世界 第12回：アメリカ小説を読む 『ハックルベリー・フィンの冒険』とアメリカ社会 第13回：英語圏のファンタジーと児童文学 第14回：授業内試験②、まとめ			
テキスト 田村 章（編）『英米文学の世界 資料集』			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 授業内試験①（40%）、授業内試験②（40%）、授業参加度（20%）			

授業科目名： イギリス文学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田村 章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 古代、中世から現代に至るイギリス文学の発展について、イギリス社会の変化と関連づけて、体系的に理解する。</p> <p>(2) イギリス文学の作家、作品、形式、専門用語等に関する基礎的な知識を身につける。</p>			
授業の概要			
イギリスの歴史を、古代、中世、16世紀、17世紀、18世紀、19世紀、20世紀の時代に区分し、それぞれの時代に特徴的な文化や思潮と代表的な文学作品について解説する。一部の作品については、作品の引用の検討や映像の鑑賞に取り組む。			
授業計画			
<p>第1回：イントロダクション、『ベーオウルフ』</p> <p>第2回：チョーサー、マロリー</p> <p>第3回：シェイクスピアの基礎知識</p> <p>第4回：シェイクスピアの作品を鑑賞する</p> <p>第5回：ミルトン、ポーブ</p> <p>第6回：デフォー、スウィフト</p> <p>第7回：リチャードソン、フィールディング、スターン</p> <p>第8回：ロマン主義の詩人たち</p> <p>第9回：オースティンとブロンテ姉妹</p> <p>第10回：ディケンズ</p> <p>第11回：ルイス・キャロル</p> <p>第12回：ワイルド、ハーディー、フォースター</p> <p>第13回：ジョイス、ウルフ</p> <p>第14回：まとめ、授業内試験</p>			
テキスト			
白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』（春風社）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価			
授業内試験（50%）、レポート（40%）、授業参加度（10%）			

授業科目名： アメリカ文学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：朴珣英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 植民地時代から現代に至るアメリカ文学について学ぶことで、文学作品における英語表現や背景にあるアメリカの多様な文化への理解を深め、アメリカ文学／文化研究の基礎を固めることを目標とする。			
授業の概要 植民地時代から現代まで、アメリカ社会の文化的な変遷を反映しているアメリカ文学の代表的な作家と作品について、詩、演劇、小説を通じて、時代背景とともに理解することを目指す。ピューリタニズムと啓蒙思想、アメリカン・ルネサンス、リアリズムとナチュラリズム、ロスト・ジェネレーション、モダニズム、ポストモダニズムなどのトピックで考察を深めていく。また、マイノリティの文学についても取り上げる。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。			
授業計画 第1回 Chapter 1:ウィリアム・ブラッドフォードとジョン・ウィンスロップ／Chapter 2:ジョナサン・エドワーズ 第2回 Chapter 3:ベンジャミン・フランクリン／Chapter 4:ラルフ・ウォルドー・エマソン 第3回 Chapter 7:ヘンリー・デイヴィッド・ソロー／Chapter 5:ナサニエル・ホーソーン 第4回 Chapter 8:ハーマン・メルヴィル／Chapter 9:ウォルト・ホイットマン 第5回 Chapter 6:エドガー・アラン・ポー／Chapter 10:エミリー・ディキンソン 第6回 Chapter 14:ロバート・フロスト／Chapter 11:マーク・トウェイン 第7回 Chapter 12:ヘンリー・ジェイムズ／Chapter 13:ケイト・ショパン 第8回 Chapter 15:シンクレア・ルイス／Chapter 16:F. スコット・フィッツジェラルド 第9回 Chapter 17:ウィリアム・フォークナー／Chapter 18:アーネスト・ヘミングウェイ 第10回 Chapter 19:テネシー・ウィリアムズ／Chapter 23:トマス・ピンチオン 第11回 Chapter 21:バーナード・マラマッド／補足 1:レスリー・マーモン・シルコウ 第12回 補足 2 :フレデリック・ダグラスとハリエット・ジェイコブズ 第13回 Chapter 20:ラルフ・エリソン / Chapter 22:トニ・モリソン 第14回 総括と授業内試験、レポート提出 定期試験は実施しない。			
テキスト 渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 入門編』研究社、2011年。			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

試験 50%、レポート 40%、授業参加度 10%

授業科目名： English Grammar (1)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高野祐二、尾崎志津子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：英文法の要点や重要構文を学習し、総合的な英文法力を高める。			
到達目標：英語を使う際に、英文法を意識し正しく英語を用いることができる。			
授業の概要			
テキストを用いて英文法の要点や重要構文を学習する。さらに種々の練習問題を解くことを通じて、総合的な英文法力を高める。取り上げるおもな文法項目は、「基本文型」、「時制」、「進行形」、「完了形」、「完了進行形」、「助動詞」、「受動態」、「仮定法」、「話法」、「節」、「不定詞」、「分詞」、「分詞構文」、「動名詞」等である。学んだ英文法項目に関して学生同士がディスカッションを行う時間を設ける。			
授業計画			
第1回： イントロダクション、基本文型			
第2回： 現在形と過去形			
第3回： 現在完了形と過去形			
第4回： 過去完了形			
第5回： 未来			
第6回： 法助動詞			
第7回： 試験1、まとめ			
第8回： 仮定法			
第9回： ifとwish			
第10回： 受動態			
第11回： 間接話法、疑問文			
第12回： 動名詞と不定詞			
第13回： 分詞構文			
第14回： 試験2、まとめ			
テキスト			
マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版（Raymond Murphy著、Cambridge University Press）			
参考書・参考資料等			
ロイヤル英文法 改訂新版（綿貫陽 改訂・著、宮川幸久・須貝猛俊・高松尚弘 共著、旺文社			

)

学生に対する評価

試験 1 (40%)、試験 2 (40%)、授業参加度 (20%)

授業科目名： English Grammar (2)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高野祐二、柴田里実
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：英文法の要点や重要構文を学習し、総合的な英文法力を高める。			
到達目標：英語を使う際に、英文法を意識し正しく英語を用いることができる。			
授業の概要			
<p>「English Grammar (1)」に引き続き、テキストを用いて英文法の要点や重要構文を学習する。さらに種々の練習問題を解くことを通じて、総合的な英文法力を高める。取り上げるおもな文法項目は、「名詞」、「代名詞」、「関係代名詞」、「関係副詞」、「形容詞」、「副詞」、「比較」、「接続詞」、「前置詞」等である。学んだ英文法項目に関して学生同士がディスカッションを行う時間を設ける。</p>			
授業計画			
第1回： イントロダクション、名詞			
第2回： aとthe、theの用法			
第3回： 代名詞と限定詞			
第4回： 関係代名詞			
第5回： 関係詞節			
第6回： 関係副詞			
第7回： 試験1、まとめ			
第8回： 形容詞と副詞			
第9回： 比較			
第10回： 接続詞と前置詞			
第11回： 前置詞			
第12回： 動詞+前置詞			
第13回： 句動詞			
第14回： 試験2、まとめ			
テキスト			
マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）第4版（Raymond Murphy著、Cambridge University Press）			
参考書・参考資料等			
ロイヤル英文法 改訂新版（綿貫陽 改訂・著、宮川幸久・須貝猛俊・高松尚弘 共著、旺文社）			

学生に対する評価

試験 1 (40%)、試験 2 (40%)、授業参加度 (20%)

授業科目名： Integrated English (1)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： ASHUROVA, Umidahon MOLNAR, John A. 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：さまざまなジャンルでディスカッション、ディベート、発表などをする。エッセーや履歴書を書く。</p> <p>到達目標：英語でディスカッション、ディベート、発表ができる。ある程度の長さのエッセーや履歴書を書くことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>統合的な英語力を身に付けるために、ペアやグループで英語による会話、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの訓練を行う。さらに、個々の単語、および文を単位とした発音練習も行う。また、英語によるエッセーや履歴書を書く練習を行う。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション；アクティビティ1；録音1</p> <p>第2回：ユニット1：整形手術；ライティング1、下書き</p> <p>第3回：ユニット2：友人か恋人か？；録音2</p> <p>第4回：ユニット3：環境問題；ライティング1、初稿</p> <p>第5回：ユニット4：規則；録音3</p> <p>第6回：ユニット5：剽窃；ライティング1、第二稿</p> <p>第7回：録音4；試験1、まとめ</p> <p>第8回：試験1復習；録音5</p> <p>第9回：ユニット6：家事；ライティング2、初稿（履歴書）</p> <p>第10回：ユニット7：家族；録音6</p> <p>第11回：ユニット8：お金を稼ぐ；ライティング2、第二稿</p> <p>第12回：ユニット9：外見と文化；録音7</p> <p>第13回：ユニット10：ブーメランチルドレン</p> <p>第14回：録音8；試験2、まとめ</p>			
テキスト			

Impact Issues 3, third edition, Day, Shaules and Yamanaka, Pearson/Longman (2019)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験 1 (20%)

試験 2 (20%)

エッセー初稿、第二稿 (20%)

履歴書 初稿、第二稿 (20%)

会話録音 (10%)

授業への取り組み姿勢 (10%)

授業科目名： Integrated English (2)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： ASHUROVA, Umidahon MOLNAR, John A. 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：さまざまなジャンルでディスカッション、ディベート、発表などをする。エッセーや履歴書を書く。</p> <p>到達目標：英語でディスカッション、ディベート、発表ができる。ある程度の長さのエッセーや履歴書を書くことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「Integrated English (1)」に引き続き、統合的な英語力を身に付けるために、ペアやグループで英語による会話、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションの訓練を行う。さらに、文脈を意識した発音練習も行う。また、英語によるエッセーや履歴書を書く練習を行う。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション；アクティビティ1；録音1</p> <p>第2回：ユニット11：職場と人間関係；ライティング1、下書き</p> <p>第3回：ユニット12：妥協；録音2</p> <p>第4回：ユニット13：キャリアの選択；ライティング1、初稿</p> <p>第5回：ユニット14：移民政策；録音3</p> <p>第6回：ユニット15：インターネットのある生活；ライティング1、第二稿</p> <p>第7回：録音4；試験1、まとめ</p> <p>第8回：試験1復習；録音5</p> <p>第9回：ユニット16：ジェンダー問題；ライティング2、初稿（履歴書）</p> <p>第10回：ユニット17：異文化コミュニケーション；録音6</p> <p>第11回：ユニット18：戦争と平和；ライティング2、第二稿</p> <p>第12回：ユニット19：片思い；録音7</p> <p>第13回：ユニット20：離婚と家族</p> <p>第14回：録音8；試験2、まとめ</p>			
テキスト			

Impact Issues 3, third edition, Day, Shaules and Yamanaka, Pearson/Longman (2019)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験 1 (20%)

試験 2 (20%)

エッセー初稿、第二稿 (20%)

履歴書 初稿、第二稿 (20%)

会話録音 (10%)

授業への取り組み姿勢 (10%)

授業科目名： Speaking Skills (1)	教員の免許状取得のための 必修科目 (教科・66条の6)	単位数： 1単位	担当教員名： ASHUROVA, Umidahon 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：英語で効果的にコミュニケーションをとるために必要な語彙と表現を学び、実際に使う練習をする。 到達目標：さまざまな語彙と英会話表現を身に付け、自分自身の生活や経験について英語で話すことができる。			
授業の概要 教科書で扱われている日常のトピックについてペアやグループで英語を話す練習を繰り返し行い、基本的な会話表現を身に付ける。トピックには、自己紹介、朝食、週末の活動、アルバイト、学校生活等が含まれる。授業では、会話や筆記による小テストを随時行うことにより、英語表現の定着を図る。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。			
授業計画 第1回：ユニット0：イントロダクション 第2回：ユニット1：学校のスケジュールを説明する 第3回：ユニット1：大学の授業を説明する ユニット2：日常について説明する、時間の表現 第4回：ユニット2：若者の日常について説明する、時間の表現 第5回：ユニット3：物を説明する 第6回：ユニット3：家庭用工具を説明する、ユニット1～3の復習 第7回：中間テスト 第8回：ユニット4：人について話す、人について説明する 第9回：ユニット4：大切な人について話す、人の特徴について説明する ユニット5：場所について説明する、部屋の物について説明する 第10回：ユニット5：物の形について説明する 第11回：ユニット6：お金と価格			

第12回：ユニット6：日常の買い物について
 ユニット7：休暇の計画について話す
第13回：ユニット7：未来の計画について話す
第14回：復習、期末テスト

テキスト

Communication Spotlight (3rd Edition): Pre-Intermediate (Abax ELT Publishing)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

中間テスト (25%)、期末テスト (25%)、会話録音 (20%)、その他の課題 (15%)、予習と授業参加 (15%)

授業科目名： Speaking Skills (1)	教員の免許状取得のための 必修科目 (教科・66条の6)	単位数： 1単位	担当教員名： PALLER, Daniel L. MOLNAR, John A. 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：英語で効果的にコミュニケーションをとるために必要な語彙と表現を学び、実際に使う練習をする。 到達目標：さまざまな語彙と英会話表現を身に付け、自分自身の生活や経験について英語で話すことができる。			
授業の概要 教科書で扱われている日常のトピックについてペアやグループで英語を話す練習を繰り返し行い、基本的な会話表現を身に付ける。トピックには、自己紹介、朝食、週末の活動、アルバイト、学校生活等が含まれる。授業では、会話や筆記による小テストを随時行うことにより、英語表現の定着を図る。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。			
授業計画 第1回：ユニット1：初めて会った人と会話をする 第2回：ユニット1：自己紹介をする ユニット2：日常について話す 第3回：ユニット2：頻度について話す 第4回：ユニット3：関心と感情を示す 第5回：ユニット3：補足の質問をする ユニット4：会話を始める、挨拶をする 第6回：ユニット4：会話を続ける ユニット1～4復習 第7回：中間試験 第8回：ユニット5：好みについて話す 第9回：ユニット5：理由を述べる			

第11回：ユニット13：小・中・高校での生活について話す

第12回：ユニット13：過去の経験について話す

ユニット14：情報を尋ねる

第13回：ユニット14：広告の内容を理解する

第14回：復習、期末テスト

テキスト

Communication Spotlight (3rd Edition): Pre-Intermediate (Abax ELT Publishing)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

中間テスト (25%)、期末テスト (25%)、会話録音 (20%)、その他の課題 (15%)、予習と授業参加 (15%)

授業科目名： Speaking Skills (2)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： PALLER, Daniel L. MOLNAR, John A. 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：英語で効果的にコミュニケーションをとるために必要な語彙と表現を学び、実際に使う練習をする。 到達目標：さまざまな語彙と英会話表現を身に付け、自分自身の生活や経験について英語で話すことができる。			
授業の概要 「Speaking Skills (1)」に引き続き、教科書で扱われている日常のトピックについてペアやグループで英語を話す練習を繰り返し行い、基本的な会話表現を身に付ける。トピックには、家族、友人、外出、レストラン、買物、強みと弱み等が含まれる。授業では、会話や筆記による小テストを随時行うことにより、英語表現の定着を図る。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。			
授業計画 第1回：ユニット10：食べ物を注文する、問題について話す 第2回：ユニット10：飲み物を注文する、問題について話す ユニット11：買い物の場所について話す 第3回：ユニット11：提案に答える 第4回：ユニット12：助けを頼む 第5回：ユニット12：能力について話す ユニット13：特徴を説明する 第6回：ユニット13：良い面と悪い面について話す 第7回：復習、中間テスト 第8回：ユニット14：旅行プランについて話す 第9回：ユニット14：意図を説明する ユニット15：過去の出来事について話す			

授業科目名： Speaking Skills (3)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： ASHUROVA, Umidahon MOLNAR, John A. 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：効果的なプレゼンテーションの技術を身につけるための訓練を行う。 到達目標：英語で効果的なプレゼンテーションができる。			
授業の概要 英語による効果的なプレゼンテーションの技術を身に付けるための訓練を行う。準備としてアウトラインとメモを作成し提出する。それらに基づき授業で合計4回のプレゼンテーションを行う。また、会話とディスカッションの練習も行う。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。			
授業計画 第1回：イントロダクション；アクティビティ1；録音1 第2回：プレゼンテーション：自己紹介；録音2 第3回：ユニット1：尊敬する理由について話す；プレゼンテーション・アウトラインの作成 第4回：ユニット1：成果や功績について話す；プレゼンテーションスキルの練習；録音3 第5回：ユニット1：尊敬されるような点について話す 第6回：ユニット1：「尊敬する人物について」プレゼンテーション1；録音4 第7回：ユニット2：修学旅行について話す 第8回：ユニット2：どんな旅行をしたいかについて話し合う；プレゼンテーションスキルの練習；録音5 第9回：ユニット2：旅行計画について話す；プレゼンテーション・アウトラインの作成 第10回：ユニット2：「最高の休暇について」プレゼンテーション2；録音6 第11回：ユニット3：調査するとき用いる表現を学ぶ 第12回：ユニット3：日本の若者について話す；プレゼンテーションスキルの練習；録音7 第13回：ユニット3：現代の流行りに関して話す 第14回：ユニット3：「最近の若者について」プレゼンテーション3；録音8			
テキスト Present Yourself 2: Viewpoints, 2nd Edition, Steven Gershon (Cambridge University Press) (2022)			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

プレゼンテーション1 (20%)、プレゼンテーション2 (20%)、プレゼンテーション3 (25%)、会話録音 (20%)、授業への取り組み姿勢 (15%)

授業科目名： Speaking Skills (4)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： ASHUROVA, Umidahon MOLNAR, John A. 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：効果的なプレゼンテーションの技術を身につけるための訓練を行う。 到達目標：英語で効果的なプレゼンテーションができる。			
授業の概要 「Speaking Skills (3)」に引き続き、英語による効果的なプレゼンテーションの技術を身につけるための訓練を行う。プレゼンテーションの練習は、一つのテーマについて、アウトライン作成、練習、改善、そして最終プレゼンテーションという形式で行う。また、会話とディスカッションの練習も行う。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online) により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。			
授業計画 第1回：ユニット4：世界についての豆知識を共有しあう；録音1 第2回：ユニット4：人に伝える時の表現を学ぶ；プレゼンテーション・スキル；録音2 第3回：論理的に説明する；プレゼンテーション練習；プレゼンテーション・アウトライン作成 第4回：ユニット4：「世界の仕組みについて」プレゼンテーション1；録音3 第5回：ユニット4の内容を復習する 第6回：ユニット5 意見を言う時の表現を学ぶ；復習、まとめ；録音4 第7回：ユニット5：現代の社会問題について討論する；プレゼンテーション・スキル 第8回：ユニット5：説得力を上げる方法について学ぶ；プレゼンテーション練習；録音5 第9回：ユニット5：「社会問題についての私の考え」プレゼンテーション2 第10回：ユニット5の内容を復習する；録音6 第11回：ユニット6：新聞などでよく使われる表現を学ぶ 第12回：ユニット6：政治に関する報道；プレゼンテーション・スキル；録音7 第13回：ユニット6：経済のニュース；プレゼンテーション練習 第14回：ユニット6：「最近のニュースについて」プレゼンテーション3；録音8			
テキスト			

Present Yourself 2: Viewpoints, 2nd Edition, Steven Gershon (Cambridge University Press) (2022)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

プレゼンテーション1 (20%)、プレゼンテーション2 (20%)、プレゼンテーション3 (25%)、会話録音 (20%)、授業への取り組み姿勢 (15%)

授業科目名： Advanced English (1)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 朴珣英、種村俊介
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 広範囲のテーマに関する多様な英文を正しく読むことができる。</p> <p>(2) 広範囲のテーマに関する多様な英文を正しく聞き取り、発音することができる。</p> <p>(3) 英文法書と辞書を用いて多様なテーマについての英文が書ける。</p> <p>(4) 広範囲のテーマに関する多様な内容を英語で話すことができる。</p>			
授業の概要			
<p>広範囲のテーマに関する多様な英文を正しく読む力、および論理展開や構成を意識して英文を書く力を身に付ける。そのために、フィクション、ノンフィクション、研究論文などさまざまなジャンルの英文を正確に読み、聞き取り、話す練習をする。読んだ英文をもとに英語による文章の書き方への理解を深め、500語程度の英文を書けるように訓練を重ねていき、自身の書いた内容を英語で話せるようにする。試験に加えて、ライティングの課題、語彙や英文法の小テストなどが課されることになる。学生の積極的な学習が求められる。</p>			
授業計画			
第1回：UNIT 1: 働き方;9時-5時ではない働き方			
第2回：UNIT 1: 働き方;様々な面接方法 文法テスト1			
第3回：Writing 1 (An Essay ; 旅行についてのエッセイ) インクラスライティング 語彙テスト1			
第4回：UNIT 3: 旅;カサブランカでの偶然の出会い Writing 1 アウトラインの提出			
第5回：UNIT 3: 旅;社会貢献する旅 Writing 1 アウトラインのフィードバック 文法テスト2			
第6回：Unit 1, 3 のリスニングと発音・会話練習、 Writing 1-1 提出 語彙テスト2			
第7回：試験1 Writing 1-1 のフィードバック			
第8回：UNIT 5: 読書; ショートストーリーとは何か Writing 1-2 の提出			
第9回：Writing 2 (A Review ; 映画の評論) インクラスライティング 文法テスト3			
第10回：UNIT 5: 読書;J・K・ローリングへのインタビュー Writing 2 アウトラインの提出			
第11回：UNIT 6: 脳の機能; エモーショナル・インテリジェンス 語彙テスト3 Writing 2 のフィードバック			
第12回：UNIT 6: 脳の機能; 右脳と左脳 Writing 2-1 の提出 文法テスト4			
第13回：Unit 5, 6 のリスニングと発音・会話練習、Writing 2-1 のフィードバック			

語彙テスト4

第14回：試験2 Writing 2-2の提出

定期試験は実施しない。

テキスト

Active: Skills for Reading 4, third edition. (National Geographic Learning/ Heinle Cengage Learning, 2014) Neil J. Anderson

参考書・参考資料等

『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）綿貫 陽

学生に対する評価

小テスト 10%、試験1 25%、試験2 25%、提出物(writing) 40%

授業科目名： Advanced English (2)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 朴珣英、種村俊介
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 広範囲のテーマに関する多様な英文を正しく読むことができる。</p> <p>(2) 広範囲のテーマに関する多様な英文を正しく聞き取り、発音することができる。</p> <p>(3) 英文法書と辞書を用いて多様なテーマについての英文が書ける。</p> <p>(4) 広範囲のテーマに関する多様な内容を英語で話すことができる。</p>			
授業の概要			
<p>「Advanced English (1)」に引き続き、広範囲のテーマに関する多様な英文を正しく読む力、および論理展開や構成を意識して英文を書く力を身に付ける。そのために、フィクション、ノンフィクション、研究論文などさまざまなジャンルの英文を正確に読み、聞き取り、話す練習をする。読んだ英文をもとに英語による文章の書き方への理解を深め、500語程度の英文を書けるように訓練を重ねていき、自身の書いた内容を英語で話せるようにする。試験に加えて、ライティングの課題、語彙や英文法の小テストなどが課されることになる。学生の積極的な学習が求められる。</p>			
授業計画			
第1回：UNIT 7: 食文化;地中海料理			
第2回：UNIT 7:食文化;遺伝子組み換え食品 文法テスト1			
第3回：Writing 1 (A Complaint Letter/E-mail ; 苦情の手紙)インクラスライティング 語彙テスト1			
第4回：UNIT 9:歴史遺跡;クレオパトラの埋葬地を探して Writing 1 アウトラインの提出			
第5回：UNIT 9:歴史遺跡；インカ帝国の遺跡 Writing 1 アウトラインのフィードバック 文法テスト2			
第6回：Unit 7, 9 のリスニングと発音・会話練習、 Writing 1-1 提出 語彙テスト2			
第7回：試験1 Writing 1-1 のフィードバック			
第8回：UNIT 10: 言語;消滅寸前の言語 Writing 1-2 の提出			
第9回： Writing 2 (An Article ; ニュース記事)インクラスライティング 文法テスト3			
第10回：UNIT 10:言語;少数民族の言語 Writing 2 アウトラインの提出			
第11回：UNIT 11: 野生動物の保護;コアラの保護活動 語彙テスト3 Writing 2 アウトラインのフィードバック			
第12回：UNIT 11:野生動物の保護;サイの密猟 Writing 2-1 の提出 文法テスト			

第13回：Unit 10, 11 のリスニングと発音・会話練習、 Writing 2-1 のフィードバック
語彙テスト4

第14回：試験2 Writing 2-2 の提出

定期試験は実施しない。

テキスト

Active: Skills for Reading 4, third edition. (National Geographic Learning/ Heinle Cengage Learning, 2014) Neil J. Anderson

参考書・参考資料等

『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）綿貫 陽

学生に対する評価

小テスト 10%、試験1 25%、試験2 25%、提出物(writing) 40%

授業科目名： Advanced English (3)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高野祐二、大八木豪
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：さまざまなジャンルの英文を読み、リサーチペーパーを書く。</p> <p>到達目標：さまざまなジャンルの英文を正確にかつ速く読むことができる。リサーチペーパーを書式に従って書くことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>さまざまなジャンルの英文を数多く読むことにより、高いレベルの語彙力を習得するとともに、英語を正確にかつ速く読む力を高めていく。また、これまでの英文法とライティングの学習を基盤にして、学生自身の調査に基づく700語程度のリサーチペーパーを論文の書式に従って書く練習をする。毎回リーディングの予習が求められるほか、リサーチペーパーを計4回提出することが課される。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： イントロダクション</p> <p>② ユニット1：リサーチペーパーとは？</p> <p> ユニット2：トピック</p> <p>第2回： ① ユニット1-1：最新テクノロジーをすぐに使うべきか？</p> <p> ② ユニット3：リサーチ</p> <p>第3回： ① ユニット1-2：最新テクノロジーを使う楽しみ</p> <p> ② ユニット4：主題文</p> <p>第4回： ① ユニット2-1：創造的教育の利点</p> <p> ② ユニット5：アウトライン</p> <p>第5回： ① ユニット2-2：教育上位国を目指して</p> <p> ② ユニット7：初稿を書く</p> <p>第6回： ① ユニット3-1：柔軟な労働時間</p> <p> ② ユニット9：序論を書く</p> <p>第7回： 試験1、まとめ</p> <p>第8回： ① ユニット3-2：大量離職</p> <p> ② ユニット11：本文を書く</p> <p>第9回： ① ユニット4-1：ナノマテリアル</p>			

<p>② ユニット12：結論を書く</p> <p>第10回： ① ユニット4-2：自動運転は実現するか？ ② ユニット13：剽窃を避ける</p> <p>第11回： ① ユニット5-1：オンラインでの正しい人間関係 ② ユニット14：参照文献リストを書く</p> <p>第12回： ① ユニット5-2：詐欺のターゲット ② ユニット15：自分の論文を評価し修正する</p> <p>第13回： ① ユニット6-1：記憶力 ② サンプル論文</p> <p>第14回： 試験2、まとめ</p>
<p>テキスト</p> <p>① On Point 3: Reading and Critical-Thinking Skills (Peggy Anderson, Sam Robinson著、Compass Publishing)</p> <p>② Basic Steps to Writing Research Papers (David. E. Kluge, Matthew A. Taylor著、National Geographic Learning)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>試験1 (25%)、試験2 (25%)、リサーチペーパー初稿 (15%)、第二稿 (15%)、完成版 (20%)</p>

授業科目名： Advanced English (4)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高野祐二、大八木豪
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：さまざまなジャンルの英文を読み、リサーチペーパーを書く。</p> <p>到達目標：さまざまなジャンルの英文を正確にかつ速く読むことができる。リサーチペーパーを書式に従って書くことができる。</p>			
授業の概要			
<p>Advanced English (3)に引き続き、さまざまなジャンルの英文を数多く読むことにより、高いレベルの語彙力を習得するとともに、英語を正確にかつ速く読む力を高めていく。また、これまでの英文法とライティングの学習を基盤にして、学生自身の調査に基づく1000語程度のリサーチペーパーを論文の書式に従って書く練習をする。毎回リーディングの予習が求められるほか、リサーチペーパーを計4回提出することが課される。</p>			
授業計画			
<p>第1回： イントロダクション</p> <p>② ユニット3：リサーチ</p> <p>第2回： ① ユニット6-2：記憶力向上の秘訣</p> <p>② ユニット6：主題文とアウトラインを修正する</p> <p>第3回： ① ユニット7-1：原子力発電</p> <p>② ユニット8：タイトルを書く</p> <p>第4回： ① ユニット7-2：フランスの原子力発電</p> <p>② ユニット9：序論を書く</p> <p>第5回： ① ユニット8-1：楽観主義と悲観主義</p> <p>② ユニット10：支持、正確さ、論理、関連性</p> <p>第6回： ① ユニット8-2：悲観主義万歳！</p> <p>② ユニット11：本文を書く</p> <p>第7回： 試験1、まとめ</p> <p>第8回： ① ユニット9-1：実家にとどまる若者たち</p> <p>② ユニット12：結論を書く</p> <p>第9回： ① ユニット9-2：多世代家庭</p> <p>② ユニット13：剽窃を避ける</p>			

第10回： ① ユニット10-1：公立学校と私立学校の教育

② ユニット14：参照文献リストを書く

第11回： ① ユニット10-2：標準テストの是非

② ユニット15：自分の論文を評価し修正する

第12回： ① ユニット11-1：ネットショッピングと個人情報

② 間違いやすい英語表現

第13回： ① ユニット11-2：政府による個人情報保護

② サンプル論文

第14回： 試験2、まとめ

テキスト

① On Point 3: Reading and Critical-Thinking Skills (Peggy Anderson, Sam Robinson著、Compass Publishing)

② Basic Steps to Writing Research Papers (David. E. Kluge, Matthew A. Taylor著、National Geographic Learning)

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験1 (25%)、試験2 (25%)、リサーチペーパー初稿 (15%)、第二稿 (15%)、完成版 (20%)

授業科目名： English in Society	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾崎（長尾）志津子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：社会において英語がどのように用いられているのか、どのような役割を果たしているのか、社会的な要因によってどのように変化するか等を学ぶ。</p> <p>到達目標：英語を社会言語学の観点から理解できる。社会言語学的なトピックを英語で議論できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会言語学の入門書を英語で精読しながら、性別・階級・地域・人種等によって生じる言語学上の差異を学ぶ。授業は講義形式で行うが、小グループでの英語によるディスカッションにも繰り返し取り組む。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。講義は英語で行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：言語と社会</p> <p>第2回：言語の多様性</p> <p>第3回：言語の変化</p> <p>第4回：方言と認識</p> <p>第5回：言語の保守</p> <p>第6回：拡張する言語</p> <p>第7回：縮小する言語</p> <p>第8回：言語と文化</p> <p>第9回：言語とアイデンティティー</p> <p>第10回：バイリンガリズム</p> <p>第11回：言語と宗教</p> <p>第12回：言語と性別</p> <p>第13回：プレゼンテーション</p> <p>第14回：プレゼンテーションと相互評価</p>			
<p>テキスト</p> <p>Sociolinguistics: A very short introduction (John Edwards著, Oxford University Press)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>			

学生に対する評価

毎回のクラスパフォーマンス (20%), ディスカッションノート (30%), チェックテスト (30%), プレゼンテーション (20%)

授業科目名： 英語圏文化入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田村 章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 （1）世界の共通言語としての英語の役割を理解する。 （2）英語圏の根幹をなすイギリスとアメリカの地誌、歴史、社会、文化を理解する。 （3）英語の世界への広がりについて、アジアやオーストラリアを中心に理解を深める。			
授業の概要 英語の背景にある英語圏地域についての理解と関心を深め、英語を学ぶ意義を明らかにしていく。イギリス、アメリカを中心に英語圏の地誌、歴史、文化、生活について具体的に学び、国際理解と国際協調の精神を養っていくことにしたい。			
授業計画 第1回：世界に広がる英語 第2回：イギリス諸地域の地誌①－イングランドとスコットランド 第3回：イギリス諸地域の地誌②－ウェールズと北アイルランド 第4回：イギリスの歴史を概観する①－古代・中世のイギリスと英語の変化 第5回：イギリスの歴史を概観する②－ヘンリー8世から名誉革命まで 第6回：イギリスの歴史を概観する③－産業革命からヴィクトリア朝まで 第7回：授業内試験①、異文化交流の意義の体験的理解 第8回：イギリスの社会と文化－教育、多民族国家、芸術 第9回：アメリカ諸地域の地誌①－アメリカの自然、北東部、中西部 第10回：アメリカ諸地域の地誌②－南部、西部 第11回：アメリカの歴史を概観する①－植民地建設から南北戦争まで 第12回：アメリカの歴史を概観する②－南北戦争からベトナム戦争まで 第13回：アメリカとカナダの英語と文化 第14回：オーストラリアの英語と文化、授業内試験②			
テキスト 田村 章（編）『英語圏文化入門資料集』			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 授業内試験①（40%）、授業内試験②（40%）、授業参加度（20%）			

授業科目名： イギリス文化概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田村 章 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 現代のイギリスについて、諸地域の特色を学び、社会・教育・文化・産業の諸相への理解を深め、必須となる知識を身につける。			
授業の概要 1年次の「英語圏文化入門」をふまえて、イギリスの文化と社会を詳しく学び、3・4年次での学習の基盤を固める。			
授業計画 第1回：イギリスの基礎知識 第2回：首都ロンドン 第3回：イングランド、スコットランド 第4回：ウェールズ、北アイルランド 第5回：移民社会としてのイギリス 第6回：紅茶の文化 第7回：イギリスの社会階級 第8回：授業内試験①、異文化交流の意義の体験的理解 第9回：イギリスの教育制度 第10回：19世紀イギリスの女性たち 第11回：現代に活躍するイギリスの女性たち 第12回：イギリスの産業 第13回：イギリスの食文化 第14回：まとめ、授業内試験②			
テキスト 田村 章（編）『イギリス文化概論資料集』			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 授業内試験①（40%）、授業内試験②（50%）、授業参加度（10%）			

授業科目名： アメリカ文化概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大八木豪 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 アメリカ社会、文化、政治、経済を歴史的観点から理解できる。			
授業の概要 今日アメリカ合衆国と呼ばれる場所で生活する人々が経験してきたことを概観する。より具体的には、人々の多様性と、人種・ジェンダー・セクシュアリティ・階級による権力の不均衡とに注意を払いながら、アメリカ社会・文化の形成過程を考察する。また、アメリカ史を国際的な文脈に置き、アメリカ合衆国とそこで生活する人々と、世界の他の国々・人々との関係についても検討を加える。同時に、絵画・写真・映画などの視覚資料や、手紙・演説原稿などの文字資料について受講生と共に分析しながら、当時の人々の世界観について議論する機会も設ける。			
授業計画 第1回：大西洋を横断する人の移動：二つの段階 第2回：激減したネイティブ・アメリカンの人口：カリフォルニアの事例 第3回：アメリカにおける宗教改革の政治 第4回：帝国、国民国家、アメリカ独立革命：結局、どれくらい革命的だったのか？ 第5回：二つの発展観：拡張か非拡張か、小テスト 第6回：政党政治と民主主義 第7回：南北戦争と国民国家の発展 第8回：革新主義者とは誰か？ 第9回：帝国主義、異文化交流の意義の体験的理解 第10回：1920年代の好景気：誰の生活水準が上がったのか？ 第11回：大恐慌とニューディール 第12回：二つの世界大戦 第13回：冷戦：二つの陣営・第三世界と安全な郊外 第14回：長い1960年代：公民権運動とエンパワーメント、そしてその歴史的影響 定期試験			
テキスト 和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

定期試験 80%

小テスト 20%

授業科目名： 英語科指導法 A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：種村俊介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>第二言語習得理論と外国語教授法の基本を理解する。日本の学校における英語教育の歴史と現状を理解し、課題に目を向け、解決のための道筋を提案できるようになる。現代の中高英語授業の標準的構成要素を理解する。教育実習に向けて、学習指導案を作成し、その指導案に従って授業を運営する実践力の基礎を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主要な第二言語習得理論及び外国語教授法を学び、日本の英語教育制度の全体像を理解する。また、英語授業を成り立たせるための優れた指導法を学び、実地に運用できるようにする。授業は、テキストに加え、配布資料、視聴覚教材を用いて行う。授業内で、模擬授業を行い、授業外でレポートが課される。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要説明、参考文献の紹介</p> <p>第2回：コミュニケーション能力、モデル授業の指導の考察①（英語による授業展開など）</p> <p>第3回：主要な第二言語習得論①（行動主義、生得主義、インプット仮説など）</p> <p>第4回：主要な第二言語習得論②（インタラクション仮説・アウトプット仮説、社会文化理論など）</p> <p>第5回：主要な外国語教授法①（文法訳読法、直接教授法など）</p> <p>第6回：主要な外国語教授法②（コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング、ナチュラル・アプローチなど）</p> <p>第7回：学習指導要領の過去から現在</p> <p>第8回：日本の英語教育の問題点と改善方向、CEFR</p> <p>第9回：標準的授業形式、授業の構成要素と学習指導案の作成</p> <p>第10回：中学校での授業</p> <p>第11回：高校での授業、小学校での英語教育と小・中・高の連携</p> <p>第12回：英語教育の目的①（グローバル化する社会における英語教育という視点からの考察）</p> <p>第13回：英語教育の目的②（生徒と教師の視点からの考察）</p> <p>第14回：まとめと試験①</p> <p>第15回：課題と既習事項の確認、ALTとの指導</p> <p>第16回：言語要素の指導(音声)、モデル授業の指導の考察②（4技能5領域の指導など）</p> <p>第17回：言語要素の指導(語彙)</p> <p>第18回：言語要素の指導(文法)、模擬授業のガイダンス</p>			

第19回：リスニングの指導法

第20回：スピーキングの指導法

第21回：リーディングの指導法

第22回：ライティングの指導法、複数技能の統合的な指導法

第23回：模擬授業 ペア・グループA

第24回：模擬授業 ペア・グループB

第25回：模擬授業 ペア・グループC

第26回：模擬授業 ペア・グループD

第27回：学習評価の方法

第28回：まとめと試験②

定期試験は実施しない。

テキスト

酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』（大修館書店）、

三浦孝著『英語授業への人間形成的アプローチ』（研究社）、

『New Horizon English Course 2』（東京書籍）、

『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）、

『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（開隆堂）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

100点満点

(1) 試験①15% (2) 試験②15% (3) 授業参加度（授業内コメントシートなど）（10%）

(4) 課題レポート（30%） (5) 模擬授業（30%）

授業科目名： 英語科指導法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：橋広司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の目的・方法を理解し、自分の言語観・教育観を論理的に示すことができる。 ・模擬授業を通じて、英語力と指導技術を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>英語教育の目的、目標、方法を学ぶ。目的論では英語教育の理念や政策について、目標論では、具体的な言語材料や題材について、方法論では、よりよい授業づくりについて学ぶ。討論や発表などでは自分の意見を述べ、他のメンバーの意見に耳を傾け、学び合う姿勢をもって積極的に取り組んでもらいたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション～英語教育の目的 第2回：人間教育としての英語教育 第3回：異文化理解教育としての英語教育 第4回：コミュニケーション教育としての英語教育 第5回：情報機器及び教材の活用 第6回：音声指導論 第7回：文字・語彙指導論 第8回：文法指導論 第9回：教科書教材論 第10回：英語の「なぜ」に答える指導法 第11回：授業展開について－学習指導案作成 第12回：模擬授業①（グループA）（学習指導案の実践） 第13回：模擬授業②（グループB）（学習指導案の実践） 第14回：模擬授業③（グループC）（学習指導案の実践）、まとめ 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校英語教科書『New Crown English Series 1,2,3』（三省堂） 高校英語教科書『My Way English Communication1,2,3』（三省堂）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年8月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年8月 文部科学省）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>模擬授業・発表（40%） 議論への参加（30%） レポート（30%）</p>			

授業科目名： 英語科指導法C	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：橘広司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の目的・方法を理解し、自分の言語観・教育観を論理的に示すことができる。 ・模擬授業を通じて、英語力と指導技術を身につける。 			
授業の概要			
英語教育のあり方、日本の英語教育に関する諸問題について、人格形成、恒久平和、言語多様性などの観点を踏まえて議論する。また、効果的な4技能の指導法を、レポート発表を通じて議論し、模擬授業で実践する。討論や発表などでは自分の意見を述べ、他のメンバーの意見に耳を傾け、学び合う姿勢をもって積極的に取り組んでもらいたい。			
授業計画			
<p>第1回：イントロダクション～言語政策と英語教育の目的</p> <p>第2回：ことばと人間、文法指導実践①「関係代名詞」など</p> <p>第3回：学校教育と英語、文法指導実践②「関係副詞」など</p> <p>第4回：「英語で授業」論再考、文法指導実践③「助動詞」など</p> <p>第5回：音声と語彙、文法指導実践④「仮定法」など</p> <p>第6回：文法指導論、文法指導実践⑤「不定詞・動名詞」など</p> <p>第7回：言語活動の指導、様々な学習評価</p> <p>第8回：認知的指導論①（音声・語彙）</p> <p>第9回：認知的指導論②（文法・表現）</p> <p>第10回：学習指導案の作成</p> <p>第11回：模擬授業①（グループA）（学習指導案の実践）</p> <p>第12回：模擬授業②（グループB）（学習指導案の実践）</p> <p>第13回：模擬授業③（グループC）（学習指導案の実践）</p> <p>第14回：模擬授業のフィードバックとまとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			
中学校英語教科書『New Crown English Series 1, 2, 3』（三省堂）			
高校英語教科書『My Way English Communication 1, 2, 3』（三省堂）			
参考書・参考資料等			
中学校学習指導要領（平成29年7月 文部科学省）			
高等学校学習指導要領（平成30年8月 文部科学省）			

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成30年8月 文部科学省）

学生に対する評価

模擬授業・発表（40%）

議論への参加（30%）

レポート（30%）

授業科目名： 日本史入門（1）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：原 史彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 単に政治史・文化史を暗記的にさらうのではなく、様々な分野における多様な歴史事象に関する研究の到達点と課題の存在を知り、歴史研究の方法論を理解する。			
授業の概要 日本の歴史の内、原始・古代より中世（戦国末期）までの歴史の流れを学ぶと共に、各時代を代表する歴史事項に関する通説と課題を知り、現状における研究の到達点と歴史研究の方法を理解する。また、時代の区切りごとにまとめを行い、課題を通して理解度を深める。			
授業計画 第1回：旧石器捏造事件と日本人の起源 第2回：邪馬台国論争 第3回：古墳の時代 第4回：まとめ（原始・古代史の課題） 第5回：大仏開眼と国分寺 第6回：王朝国家と国風文化の発展 第7回：源平争乱と鎌倉政権樹立 第8回：南北朝争乱と南朝史観 第9回：まとめ（古代～中世史の課題） 第10回：室町政権と唐物受容 第11回：応仁・文明の乱と戦国の幕開け 第12回：西洋文明との邂逅 第13回：群雄割拠の時代 第14回：まとめ（中世史・戦国史の課題） 定期試験			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 各項目を代表する史料・論文・図面・写真等をコピーで配布する。			
学生に対する評価 試験（90%）＋コメントシート（10%）			

授業科目名： 日本史入門（２）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：原 史彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 単に政治史・文化史を暗記的にさらうのではなく、様々な分野における多様な歴史事象に関する研究の到達点と課題の存在を知り、歴史研究の方法論を理解する。			
授業の概要 日本の歴史の内、近世（織田政権以降）より近現代までの歴史の流れを学ぶと共に、各時代を代表する歴史事項に関する通説と課題を知り、現状における研究の到達点と歴史研究の方法を学ぶ。また、時代の区切りごとにまとめを行い、課題を通して理解度を深める。			
授業計画 第1回：織田政権の躍進と挫折 第2回：豊臣政権と天下一統 第3回：徳川政権の成立 第4回：江戸幕府政治の展開 第5回：まとめ（統一政権成立の課題） 第6回：徳川・松平史観（妖刀村正伝説を例に） 第7回：身分制社会 第8回：いわゆる「鎖国」制度（海外に開かれた4つの窓） 第9回：改革の時代 第10回：まとめ（江戸幕府政治の課題） 第11回：開国と尊王攘夷 第12回：明治維新と薩長史観 第13回：大日本帝国 第14回：まとめ（近代国家移行の課題）			
定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 各項目を代表する史料・論文・図面・写真等をコピーで配布する。			
学生に対する評価 試験（90%）＋コメントシート（10%）			

授業科目名： アジア史入門（1）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加瀬（廣島）佳代子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会 及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 インドに視点を置き、世界史に関する広い教養を身につける。ネルーの歴史観を学ぶことで、歴史観に関する基礎知識を身につける。			
授業の概要 この授業では、インド独立運動の指導者であり、初代首相でもあるジャワハラル・ネルーの『父が子に語る世界歴史』を通して、インドに視座を置いた「世界史」を知る。ネルーが本書を執筆したのは、1930年代初頭のことで、イギリスの植民地支配に反対し、インド独立運動を指導したネルーは刑務所に収監中だった。そこで彼が10才の娘インディラに宛てて書き続けた手紙が、本書のもととなっている。「世界史」と冠しているが、その内容は、私たちが知っている「世界史」とはかなり違っている。本書を通して、当時のインドの状況やインドの歴史観を知ったところで、私たちの歴史観について考えてもらいたい。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：インド亜大陸とジャワハラル・ネルーについて 第2回：文明の起こり：インドから見た古代文明 第3回：宗教の誕生：キリスト教、ヒンドゥー教、仏教の起源と展開 第4回：宗教の誕生：イスラム教の誕生 第5回：変化する宗教：インドから見た十字軍 第6回：封建制度：インドから見た日本の幕府 第7回：仏僧、玄奘の17年にわたる大旅行 第8回：新しい秩序：インドから見た新航路の発見と中世世界の破綻 第9回：新しい秩序：インドから見た宗教改革 第10回：新しい秩序：ムガル帝国の創立と解体 第11回：新しい秩序：インドから見た日本の鎖国 第12回：「民衆」の誕生：インドから見たフランス革命 第13回：日本の台頭：インドから見た日清日露戦争 第14回：資本主義の発展：インドにとってのイギリスの存在 定期試験			

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

ジャワハール・ネルー『父が子に語る世界歴史 1-8』みすず書房

学生に対する評価

授業後のコメントシート50%+期末試験50%

授業科目名： アジア史入門（2）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加瀬（廣島）佳代子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会 及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 インドに視点を置き、世界史に関する広い教養を身につける。ネルーの歴史観を学ぶことで、歴史観に関する基礎知識を身につける。			
授業の概要 アジア史入門（1）に続けて、インド独立運動の指導者であり、初代首相でもあるジャワハール・ネルーの『父が子に語る世界歴史』を通して、インドに視座を置いた「世界史」を知る。ネルーが本書を執筆したのは、1930年代初頭のことで、イギリスの植民地支配に反対し、インド独立運動を指導したネルーは刑務所に収監中だった。そこで彼が10才の娘インディラに宛てて書き続けた手紙が、本書のもととなっている。「世界史」と冠しているが、その内容は、私たちが知っている「世界史」とはかなり違っている。本書を通して、当時のインドの状況やインドの歴史観を知ったところで、私たちの歴史観について考えてもらいたい。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：アジア史入門（1）のふりかえり 第2回：科学の発展：インドから見るダーウィンの進化論 第3回：帝国主義と民主主義の台頭：インドへの影響 第4回：社会主義の黎明：インドから見るマルクス主義 第5回：第一次世界大戦：インドから見る世界大戦 第6回：第一次世界大戦：戦争に巻き込まれるアジア 第7回：ガンディーが率いるインドの非武装蜂起：インドから見たインド 第8回：経済の疲弊と帝国主義：インドから見るパレスティナ問題 第9回：経済の疲弊と帝国主義：インドから見た西アジア 第10回：経済の疲弊と帝国主義：インドから見たドイツ 第11回：経済の疲弊と帝国主義：インドから見た中国の革命 第12回：経済の疲弊と帝国主義：インドから見た科学の善用と悪用 第13回：世界恐慌と英米の覇権争い：インドから戦争に向かう世界を見る 第14回：第二次世界大戦：インドから見る日本とドイツ 定期試験			

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

ジャワハール・ネルー『父が子に語る世界歴史 1-8』みすず書房

学生に対する評価

授業後のコメントシート50%+期末試験50%

授業科目名： 西洋史入門(1)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北原（廣田）ルミ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：「ヨーロッパ」アイデンティティの形成とゆらぎ～古代から中世まで～ 到達目標： ・ヨーロッパの古代から中世にかけての歴史・文化に関する基礎知識を身につけている。 ・ヨーロッパの古代・中世の人々について具体的に考え、歴史の問題意識へつなげられる。			
授業の概要 ヨーロッパの境界線はどこにあるのかをめぐり、ロシアとEU諸国の対立など現代においても大きな問題が生じている。「ヨーロッパ」という地域アイデンティティ自体が、そもそも歴史のなかで創られ、揺らぎ続けてきた。本授業ではその起源にさかのぼり、とくにキリスト教との関わりを軸にヨーロッパとその周辺地域の古代から中世までを概観する。高校世界史レベルの基礎知識を確実にし、「ヨーロッパとは何か」という問いを通じて歴史的考察力をはぐくむ。			
授業計画 第1回：ガイダンス「ヨーロッパ」とは 第2回：古代オリエント世界：多神教とユダヤ教 第3回：古代ギリシアのポリス世界 第4回：ヘレニズム世界 第5回：古代ローマの地中海支配 第6回：ローマ帝国とキリスト教 第7回：前半のまとめと中間試験 第8回：ビザンツ帝国と東方正教 第9回：ローマ・カトリック教会と諸王国 第10回：中世の文化圏とネットワーク：修道会、大学、都市、ギルド 第11回：レコンキスタと十字軍 第12回：モンゴルとロシア 第13回：英仏百年戦争 第14回：カトリック教会の危機とルネッサンス			

定期試験
テキスト 上田耕三、入江幸二、比佐篤『西洋史の扉をひらく 一通史とテーマ史でたどる古代から現代』晃洋書房、2023年
参考書・参考資料等 ・各自高校で使用した教科書の『歴史総合』、『世界史探究』 ・ジャック・ル・ゴフ、前田耕作監訳・川崎万理訳、『子どもたちに語るヨーロッパ史』、ちくま学芸文庫、2009年
学生に対する評価 毎回の授業の小課題50%、中間試験20%、定期試験30%

授業科目名： 西洋史入門（2）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北原（廣田）ルミ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：「西洋」とは何か 到達目標： ・西洋の近世から近現代にかけての歴史・文化に関する基礎知識を身につけている。 ・西洋の近現代史について多様な地域文化の視点から異なる立場を理解し、問題意識をもっている。			
授業の概要 「西洋」はヨーロッパだけではない。15世紀末以降、大西洋を越えて「発見」されたアメリカも含まれる。「西洋」が大きく拡張するのと軌を一にして、ヨーロッパ内部も宗教改革を背景とする分裂・対立が深まり、大きな変貌を遂げていった。本授業では、ヨーロッパ諸国によって世界の一体化が推し進められた近世から、革命や戦争が社会や文化のありかたを急激に変えていく近現代までを概観する。高校世界史レベルの基礎知識を確実にし、「西洋とは何か」という問いを通じて歴史的考察力をはぐくむ。			
授業計画 第1回：ガイダンス「西洋」とは 第2回：大航海時代と南北アメリカ 第3回：宗教戦争のヨーロッパと修道会による世界宣教 第4回：海と植民地をめぐる覇権争い 第5回：オスマン・トルコとヨーロッパ諸国 第6回：外交と啓蒙の時代 第7回：フランス革命からウィーン体制へ 第8回：前半のまとめと中間試験 第9回：南北アメリカ諸国の独立・建国 第10回：ナショナリズム、帝国主義、社会主義 第11回：第一次世界大戦と「西洋の没落」 第12回：第二次世界大戦から戦後国際体制へ 第13回：東西冷戦下におけるアジア・アフリカ植民地の独立			

第14回：ソ連解体後のロシア、中東、アフリカと「西洋」

定期試験

テキスト

上田耕三、入江幸二、比佐篤『西洋史の扉をひらく-通史とテーマ史でたどる古代から現代』
晃洋書房、2023年

参考書・参考資料等

- ・各自高校で使用した教科書の『歴史総合』、『世界史探究』
- ・ジャック・ル・ゴフ、前田耕作監訳・川崎万理訳、『子どもたちに語るヨーロッパ史』、ちくま学芸文庫、2009年

学生に対する評価

毎回授業の小課題50%、中間試験20%、定期試験30%

授業科目名： 日本史概論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：原史彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本の中世史・近世史の中で、東海地方における具体的な事例を通じて、地域の歴史を学ぶとともに、日本史における調査・研究の方法論を学ぶ。			
授業の概要 戦国時代から江戸時代における濃尾地方の歴史・文化に焦点を当て、江戸時代の中心都市だった江戸との比較・関わり合いにおいて、中央の歴史では語られない地域の歴史・文化を理解する。前期は濃尾地方の戦国史と、中央の歴史との比較において東海地方の建築と庭園について紹介する。			
授業計画 第1回：濃尾の戦国時代1（濃尾の城） 第2回：濃尾の戦国時代2（東美濃の名城） 第3回：濃尾の戦国時代3（桶狭間合戦） 第4回：濃尾の戦国時代4（織田信長の美濃攻略） 第5回：濃尾の戦国時代5（長篠合戦図屏風を読む） 第6回：濃尾の戦国時代6（長久手合戦図屏風を読む） 第7回：濃尾の戦国時代7（徳川将軍の名刀） 第8回：住居・庭園史1（前近代建築） 第9回：住居・庭園史2（近代建築） 第10回：住居・庭園史3（歴史主義建築からモダニズム建築へ） 第11回：住居・庭園史4（モダニズム建築からポスト・モダン建築へ） 第12回：住居・庭園史5（古代・中世庭園） 第13回：住居・庭園史6（大名庭園） 第14回：住居・庭園史7（近現代庭園・公園）			
テキスト 授業内容に必要な資料は各回に配布する。			
参考書・参考資料等 特に無し。			

学生に対する評価

レポート50%・コメントシート50%

授業科目名： 日本史概論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：原史彦 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本の中世史・近世史の中で、東海地方における具体的な事例を通じて、地域の歴史を学ぶとともに、日本史における調査・研究の方法論を学ぶ。			
授業の概要 戦国時代から江戸時代における濃尾地方の歴史・文化に焦点を当て、江戸時代の中心都市だった江戸との比較・関わり合いにおいて、中央の歴史では語られない地域の歴史・文化を理解する。後期は尾張徳川家を中心とした名古屋と江戸の様相と、東海地方の伝統文化である瀬戸物生産の展開及び、東照宮祭礼について紹介する。			
授業計画 第1回：名古屋と江戸1（江戸幕府城郭統制） 第2回：名古屋と江戸2（寛永の江戸） 第3回：名古屋と江戸3（参勤交代制度） 第4回：名古屋と江戸4（明暦大火） 第5回：名古屋と江戸5（尾張藩邸と御成） 第6回：名古屋と江戸6（尾張藩邸） 第7回：名古屋と江戸7（名古屋城下御殿） 第8回：名古屋と江戸8（尾張領内御殿） 第9回：名古屋と江戸9（熱田御殿） 第10回：東海の伝統文化1（東照宮祭礼の発祥） 第11回：東海の伝統文化2（東照宮祭礼の展開） 第12回：東海の伝統文化3（唐物から桃山陶へ） 第13回：東海の伝統文化4（陶磁器の輸出） 第14回：東海の伝統文化5（瀬戸物の近現代）			
テキスト 授業内容に必要な資料は各回に配布する。			
参考書・参考資料等 特に無し。			
学生に対する評価 レポート50%・コメントシート50%			

授業科目名： アジア史概論 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野純子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 1. 東アジアについて広い教養と歴史・文化に関する基礎知識を習得する。 2. 近代中国社会の歴史を学ぶことで、異なる立場を理解し、多様な地域文化を観る総合的な視点を有することができる。			
授業の概要 本講義は、近代の中国、中華圏の「歴史」を通して東アジアの行方について考えるものである。この授業では特に、中国の近代社会について歴史・文化・政治などのキーワードからその特性を考える。清朝末期から戦後初期に至る周辺地域との関係から、東アジアにおける中国近代史の位置づけを考え、日中戦争、植民地支配、戦後の中華圏社会に関して言及する。歴史の事象や映画などを通して、社会的背景に注目し、日本との違いを読み解いていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス：今日の東アジアの概観 第2回：アジア史研究—中国とその周辺 第3回：人物で考える近代中国史—孫文／毛沢東／蒋介石・・・ 第4回：中国の開国—アヘン戦争と影響 第5回：辛亥革命前夜—孫文の革命運動 第6回：辛亥革命結末—中華民国の成立 第7回：日本の占領地と日中戦争—満洲国と政権 第8回：戦後—日本の敗戦と「中国人」の再定義 第9回：中華人民共和国の建国 第10回：「二つの中国」①—「新中国」、文化大革命、日中国交正常化 第11回：「二つの中国」②—新たな「中華民国」、日華断交 第12回：中華人民共和国の改革開放 第13回：歩み①—中国と香港の歩み 第14回：歩み②—中国とマカオの歩み 定期試験			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

川島真『近代国家への模索 1894-1925』(岩波新書、2010年)

西村成雄『中国の近現代史をどう見るか—シリーズ中国近現代史〈6〉』(岩波書店、2017年)

田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司『新・図説 中国近現代史：日中新時代の見取図』(法律文化社、初版2012年、改訂版2020年)

石川禎浩『中国共産党、その百年』(筑摩選書、2021年)

倉田徹、小栗宏太編『香港と「中国化」受容・摩擦・抵抗の構造』(明石書店、2022年)

学生に対する評価

レポート(50%)、毎回の授業のリアクションペーパー(50%)

授業科目名： アジア史概論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野純子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 1. 東アジアについて広い教養と歴史・文化に関する基礎知識を習得する。 2. 中華圏(中国、台湾、香港)の歴史を学ぶことで、異なる立場を理解し、多様な地域文化を 観る総合的な視点を有することができる。			
授業の概要 この授業では、中華圏、特に台湾の近現代社会について、歴史・文化・政治などのキーワード からその特性を考える。戦前から現在に至る台湾とその周辺諸国との関係から、「台湾」の位 置づけを考える。加えて、日本の台湾植民地支配、戦後の台湾社会に関して言及する。本講義 では、中国、台湾、香港に目を向け、19世紀から現在に至るまでの東アジア地域の変遷を見つ めなおす。そのうえで、戦後日本の中国認識、台湾認識の現状も考える。			
授業計画 第1回：ガイダンスー中華民国とは 第2回：アジア史研究（歴史と中華圏）ー日本と台湾の話 第3回：誰の歴史なのか？ー日本、台湾、中国で考える 第4回：日本と台湾の出会いー抵抗 第5回：日本による同化政策ー教育、学校 第6回：台湾人「日本兵」の誕生ー戦争と台湾 第7回：戦後初期の台湾ー光復／抵抗 第8回：戦後の台湾政治体制ー二二八事件、「白色テロ」 第9回：侯孝賢：台湾映画『悲情城市』を評価するー映画から読み解く二二八事件の影 第10回：侯孝賢：台湾映画『悲情城市』を評価するー映し出される過去と現在 第11回：李登輝政権の誕生ー台湾における政権の本土化と民主化 第12回：近年の兩岸関係ー中国／台湾／香港 第13回：デモーひまわり学生運動と雨傘運動 第14回：台湾の位置づけー現在の日本、台湾、中国の関係について 定期試験			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

大東和重『台湾の歴史と文化-六つの時代が織りなす「美麗島」』（中公新書、2020年）』

周 婉窈『図説 台湾の歴史』（平凡社、2007年）

陳來幸・北波道子・岡野翔太 編『交錯する台湾認識』（勉誠出版、2017年）

若林正文『台湾の歴史』（講談社、2023年）

学生に対する評価

レポート（50%）、毎回の授業のリアクションペーパー（50%）

授業科目名： 西洋史概論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北原（廣田）ルミ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：ヨーロッパにおける「歴史の歴史」と現在の歴史学への視点 目標： ・ヨーロッパにおける世界史記述の特徴および歴史書の古典としてどのようなものがあるかを説明できる。 ・ヨーロッパの近代歴史学の成立から「新しい歴史学」への展開を理解し、説明できる。			
授業の概要 私たちは過去を直接知ることができない。私たちの知る「歴史」とは、ある時代・ある地域の歴史家が記述してきたものにすぎず、それは時代や地域が変われば書きかえられうる「現在から過去への問い」である。本授業では、ヨーロッパにおける世界史記述を主な対象として、キリスト教との関係に特に注目しながら、古代から近代までの「歴史の歴史」の概略を辿る。また、その流れの中で、「近代歴史学」の学問としての確立をフランス・ドイツ中心に概観するとともに、これを全面的に批判し対決を志向する「新しい歴史学」の登場による「歴史学の転換」までを理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：古代の世界史記述：ヘロドトス、トゥキディデス、ポリュビオス 第3回：キリスト教誕生時の歴史記述：ヨセフス、タキトゥス 第4回：中世の世界史記述と聖書 第5回：「普遍史」の成立 第6回：大航海と宗教改革による「普遍史」の危機 第7回：啓蒙の時代における「普遍史」崩壊 第8回：啓蒙時代の歴史家ヴォルテール 第9回：国民国家の時代：ミシュレの「世界史」 第10回：ランケの科学的世界史 第11回：マルクスの唯物論的歴史観、ウェーバーの古代研究 第12回：社会史・心性史			

第13回：ウォーラーステインの世界システム論

第14回：記憶の歴史学：ジャンヌ・ダルクの例

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

・岡崎勝世『世界史とヨーロッパ ヘロドトスからウォーラーステインまで』、講談社現代新書、2003年

・岡崎勝世『聖書vs. 世界史 キリスト教的歴史観とは何か』、講談社現代新書、1996年

その他プリントおよび参考文献リスト配布

学生に対する評価

毎回のコメントシート60%、定期試験40%

授業科目名： 西洋史概論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北原（廣田）ルミ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：西洋ジェンダー史入門 到達目標： ・西洋の歴史学によるジェンダー問題の取り上げ方を理解し、総合的な視点から説明できる。 ・近世以降の西洋における家族・女性・身体・男性のありかたについて基礎知識がある。			
授業の概要 たとえば、男装を理由に異端とされ火刑に処された15世紀のジャンヌ・ダルクが、死後数百年も経った後にヒロインとして復活し、国境も越えて新たな物語化をされ続けるのはなぜなのか？その問いについて考える一つの方法として、西洋ジェンダー史という切り口がある。本授業では、弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家族史からグローバル・ヒストリーまで』を手掛かりに、近世から現代までの西洋のジェンダーをめぐる歴史学の問題意識とその研究手法を概観する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：家族史① 伝統的家族とは？ 第3回：家族史② 近代的家族モデル 第4回：女性史① 女性史研究とは 第5回：女性史② 「人権宣言」と「女権宣言」：第2～5回のまとめ① 第6回：ジェンダー史① ジェンダーとは何か 第7回：ジェンダー史② 歴史学とジェンダー概念 第8回：身体史① 歴史学の対象としての身体 第9回：身体史② 近代における男女の身体：第6～9回のまとめ② 第10回：男性史① 「男らしさ」の可変性 第11回：男性史② 「近代の男らしさ」 第12回：新しい軍事史① 軍隊とジェンダー史 第13回：新しい軍事史② 近代の軍隊と女性：第10～13回のまとめ③ 第14回：グローバル・ヒストリー 植民地支配の「男らしさ」			

定期試験

テキスト

弓削尚子、『はじめての西洋ジェンダー史 家族史からグローバル・ヒストリーまで』、山川出版社、2021年

参考書・参考資料等

姫岡とし子、『ジェンダー史10講』、岩波新書、2024年

学生に対する評価

まとめ課題①～③（20%×3回）60%、定期試験40%

授業科目名： 人文地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤（竹中）由香
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標： 人文地理学の基礎的な概念・方法論を学び、身近な地域や空間を地理学的にとらえることができるようになる。			
授業の概要： 地理学とは、地表上に存在するあらゆる自然的・人文的事象を対象とし、それらの関係性や立ち現れ方の違いから地域性を解き明かしていく学問である。このうち人文地理学は、われわれ人間を取り巻く社会環境や社会現象を対象とする分野である。この授業では、人文地理学の多彩な研究領域（都市・農村、ランドスケープ、産業空間、労働と居住、消費生活、歴史地理、地図とGIS、公共政策、防災など）を取り上げながら、それらの基礎的な概念や方法論を学ぶことで、身近な地域や空間を地理学的にとらえる視点と思考力を養うことを目指す。			
授業計画 第1回：イントロダクション「地理学を学ぶために」 第2回：地域のなりたちを繙く（1）：進化しつづける都市 第3回：地域のなりたちを繙く（2）：現代社会における農村 第4回：地域のなりたちを繙く（3）：人と地域を結ぶランドスケープ 第5回：社会と空間をモデル化する（1）：経済活動のグローバル化とローカル化 第6回：社会と空間をモデル化する（2）：企業の立地戦略と消費生活 第7回：中間試験（第1回～第6回を対象とする）と解説 第8回：場所をめぐる人の思考を読む（1）：危険に対する空間的实践 第9回：場所をめぐる人の思考を読む（2）：都市を再生する人々 第10回：地図で過去と現在を繋ぐ（1）：地図から読み解く歴史 第11回：地図で過去と現在を繋ぐ（2）：景観復原とその応用 第12回：地域の未来に向けて実践する（1）：政策論としての地理学の可能性 第13回：地域の未来に向けて実践する（2）：地理空間情報と未来の社会 第14回：地域の未来に向けて実践する（3）：レジリエンスから考える防災 定期試験			
テキスト 竹中克行（編）『人文地理学のパースペクティブ』ミネルヴァ書房，2022年。			
参考書・参考資料等 毎回、教科書に沿った授業資料をポータルサイト（manaba）に掲載する。			
学生に対する評価 中間試験（35%）＋最終試験（65%）＝100%			

授業科目： 地誌学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤（竹中）由香
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標： 地誌学の基礎を学ぶことで、地域を動的かつマルチスケールで見ることができるようになる。			
授業の概要： 地誌学とは、地域を研究対象とする地理学の方法論の1つであり、地域を構成する自然的要素（地形、気候、水文など）と人文的要素（人口、都市・農村、産業、文化など）の関係性から地域の総合的理解を目指す学問である。概論に相当するこの授業では、日本・世界の諸地域の事例を取り上げながら、地誌学的な見方・考え方の基礎を学ぶことをねらいとする。常に自然と人間の関係性に注視し、かつ空間スケールの異なる地域を取り上げることで、地誌学に求められる「地域を動的にかつマルチスケールでみる視点」を習得することを目指す。			
授業計画 第1回：イントロダクション「地誌学とは何か？」 第2回：地誌学の方法（地図の見方・使い方、フィールドワーク） 第3回：都市の個性（京都府宇治市） 第4回：雪と砂泥と共に生きる（青森県津軽平野） 第5回：石に刻まれた地域らしさ（愛媛県西予市明浜町狩浜地区） 第6回：世界遺産を地誌する（島根県太田市 石見银山） 第7回：島を考える（沖縄県北大東村） 第8回：中間試験（第1回～第7回を対象とする）と解説 第9回：河川と共に生きる人々（アフリカ・ナイル川） 第10回：ワインのテロワール（フランス） 第11回：国土を造った人々（オランダ） 第12回：大都市の発展と環境問題（アジア） 第13回：自然環境の開発史（ブラジル） 第14回：巨大ハリケーンに襲われた町（アメリカ・ニューオーリンズ） 定期試験			
テキスト： 上杉和央・小野映介（編）『みわたす・つなげる 地誌学』，古今書院，2023年。			
参考書・参考資料等： 毎回，教科書に沿った授業資料をポータルサイト（manaba）に掲載する。			
学生に対する評価： 中間試験（35%）＋最終試験（65%）＝100%			

授業科目名： 政治学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：相川 裕亮 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業のテーマ及び到達目標 政治における重要な概念がどのように使用され、変遷してきたのかを学ぶ。			
授業の概要 西洋政治思想史を学ぶ。とくに政治権力の正当化原理、それへの抵抗原理の歴史を学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回： イントロダクション</p> <p>第2回： 古代ギリシアの政治思想 プラトン、アリストテレス</p> <p>第3回： ローマの政治思想 ポリュビオス、キケロ</p> <p>第4回： キリスト教と中世ヨーロッパの政治思想（1） エウセビオスとアウグスティヌス</p> <p>第5回： キリスト教と中世ヨーロッパの政治思想（2） ゲラシウス、アキナス</p> <p>第6回： ルネサンス マキアヴェッリ</p> <p>第7回： 宗教改革（1） ルターとカルヴァン</p> <p>第8回： 宗教改革（2） モナルコマキとポリティーク</p> <p>第9回： 中間試験と解説</p> <p>第10回： 17世紀イングランドの政治思想（1） ホッブズ</p> <p>第11回： 17世紀イングランドの政治思想（2） ロック</p> <p>第12回： 米仏二つの革命（1） ルソーとフランス革命</p> <p>第13回： 米仏二つの革命（2） モンテスキューとアメリカ革命</p> <p>第14回： アメリカと自由主義・立憲主義・民主主義 ジェファソン、トクヴィル</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣（2013年））</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>田上雅徳『入門講義 キリスト教と政治』（慶應義塾大学出版会、2015年）</p> <p>堤林剣『政治思想史入門』（慶應義塾大学出版会、2016年）</p> <p>『岩波講座 政治哲学〈1～6〉』（岩波書店）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>コメントシート（40%）、試験（60%）</p>			

授業科目名： 社会学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大山（高山） 小夜
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 社会学の古典的研究、様々な社会事象の検討を通じて、社会学の基本的視座や発想法を身につける。			
授業の概要 第1部（第1・2回）は、身近な事例や代表的な用語を用いて社会学の基本的視座を紹介する。第2部（第3～5回）は、社会学の基礎を築いた代表的な社会学作品を扱う。第3部（第6～13回）は、都市・家族・教育・犯罪などの日常生活の諸側面を、社会学の発想を用いて考察する。社会学と縁の深い社会調査の目的・意義・留意点についても学ぶ。			
授業計画 第1回：社会学のものの見方——社会の中の人間 第2回：集団と個人——社会化と様々な集団類型 第3回：自殺と社会——デュルケム『自殺論』 第4回：宗教と社会——ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 第5回：潜在機能と予言の自己成就——マートンの中範囲理論 第6回：ロボットは人間を超えられるか——意味や文脈を理解すること 第7回：場面と体面——ゴフマンの相互作用秩序 第8回：変容する家族——近代家族と第二の近代 第9回：都市化（1）——都市生活と社会心理 第10回：都市化（2）——現代都市の諸問題 第11回：社会問題と社会運動——生きづらさと包摂の力学 第12回：人はなぜ群れるのか——集合行動と社会変動 第13回：社会調査と社会学——実証科学と倫理 第14回：試験とまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 毎回資料を配布する。			
学生に対する評価 宿題*26% 試験74% *宿題は第14回を除く各回終了時に出される課題の提出			

授業科目名： 宗教学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：落合建仁 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 伝統的諸宗教の基本情報や、宗教学で使用される用語について説明できるようになる。 ・ 宗教的な諸問題・諸課題について、自らの力で思考することができるようになる。			
授業の概要 宗教とは何かという視点から出発し、世界の宗教状況、そして日本における宗教状況を概観し、宗教に関わる諸問題について考察する。			
授業計画 第1回：講義概要「宗教学」とは何か 第2回：「宗教」とは何か 第3回：世界の宗教分布と宗教分類 第4回：ユダヤ教について 第5回：キリスト教について 第6回：イスラム教について 第7回：仏教について 第8回：日本の伝統諸宗教について 第9回：現代日本の宗教状況：いわゆるカルトに関連して 第10回：現代日本の宗教状況：スピリチュアリティをめぐって 第11回：死生観を問う 第12回：国家と宗教の関係について 第13回：救いとは何か 第14回：試験とまとめ 定期試験は行わない。			
テキスト ・プリントを適宜配布いたします。			
参考書・参考資料等 ・授業時に適宜紹介いたします。			
学生に対する評価 ・試験60%、コメントシート等40%			

授業科目名： 宗教学各論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：落合建仁 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における諸宗教の歴史についての基本的知識を身につけることができる。 ・世界宗教とされる諸宗教が日本の社会や文化に及ぼした諸影響（貢献や課題等）について説明できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、いわゆる世界宗教とされる諸宗教の歴史についての基本的知識を身につけ、総合的な視点から説明できることを目的とする。そのために、授業では、それら諸宗教の成立と教義の内容を含む歴史の変遷・展開を紐解き、大局的に理解していくとともに、また、日本への伝来と今日に至るまでの展開にも触れていくこととなる。そうして、諸宗教の日本の社会や文化に及ぼした諸影響や相互連関について総合的な視点で学びを深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義概要</p> <p>第2回：ユダヤ教の歴史</p> <p>第3回：キリスト教（カトリック）の歴史</p> <p>第4回：キリスト教（正教会）の歴史</p> <p>第5回：キリスト教（プロテスタント）の歴史</p> <p>第6回：イスラム教の歴史</p> <p>第7回：仏教の歴史</p> <p>第8回：日本における神道の展開</p> <p>第9回：日本における仏教の展開</p> <p>第10回：日本におけるキリスト教（カトリック）の展開</p> <p>第11回：日本におけるキリスト教（正教会）の展開</p> <p>第12回：日本におけるキリスト教（プロテスタント）の展開</p> <p>第13回：日本における諸宗教の展開</p> <p>第14回：試験とまとめ</p> <p>定期試験は行わない。</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを適宜配布いたします。 			
<p>参考書・参考資料等</p>			

・授業時に適宜紹介いたします。

学生に対する評価

・試験60%、コメントシート等40%

授業科目名： 社会科・地理歴史科指導 法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川本 一也 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地 理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 学習指導要領や社会科・地理歴史科の授業づくりの基礎を理解することができる。 (2) 学習指導略案を作成することができる。 (3) 模擬授業を通じて、授業方法等の基礎を身につけている。			
授業の概要 社会科・地理歴史科の授業づくりを構想するにあたって、社会科の目標・内容や特色、教材研究の仕方等について、現場経験を生かしながら必要な基礎的内容等について講義・演習する。また、アクティブラーニングの視点を取り入れ、グループディスカッション等をしたり、学習指導案について本時案(略案)の作成方法等を学んだりすることで、自身でも本時案を作成(必要に応じてICT活用を含む)し、それに基づいて模擬授業を行い、社会科授業方法等の基礎を身に付けることができる。			
授業計画 第1回：社会科・地理歴史科の歴史と教科の目標と特色及び授業のあり方と授業の三要素【講義】 第2回：優れた社会科の授業をビデオ視聴・体験しよう、略案を見よう【演習】 『自分の受けてきた授業と何が違うか、考えよう』 第3回：社会科・地理歴史科の学習指導案について【講義】『指導案とは何か、その形式、書き方』 第4回：社会科の教材研究の方法【講義】 『地理・歴史・公民各分野ごとの教材研究の留意点、ICTの活用方法、教科書・資料集等の役割』 第5回：学習指導案(略案)を作成しよう(地理1 主に写真資料と発問作成の視点から)【演習】 第6回：学習指導案(略案)を作成しよう(地理2 主に指導過程の修正と板書計画の視点から)【演習】 第7回：学習指導案(略案)を作成しよう(歴史1 主に絵画資料と発問作成の視点から)【演習】 第8回：学習指導案(略案)を作成しよう(歴史2 主に指導過程の修正と文書資料の扱いの視点から)【演習】 第9回：学習指導案(略案)で模擬授業をしよう(地理1 写真資料等の提示方法の検討を中心に)【演習】 第10回：学習指導案(略案)で模擬授業をしよう(地理2 発問・板書の仕方の検討を中心に)【演習】 第11回：学習指導案(略案)で模擬授業をしよう(歴史1 絵画資料の扱いの検討を中心に)【演習】 第12回：学習指導案(略案)で模擬授業をしよう(歴史2 生徒の意見の聞き方の検討を中心に)【演習】 第13回：子ども理解の重要性【講義】 第14回：子ども主体の授業とまとめレポート作成【講義等】 定期試験 実施しない			
テキスト 中学校学習指導要領解説 (PDF)、高等学校学習指導要領解説 (PDF)			
参考書・参考資料等 「個の育成をめざす授業」山根栄次・市川則文・三重「個を育てる」授業研究会編 2010 三晃書房			
学生に対する評価 ●模擬授業 20% ●課題1【第2回の優れた社会科の授業の体験・視聴の感想(自分が受けてきた社会科・地理歴史科の授業との違い)第3回時にレポート提出〈A4一枚〉】 20% ●課題2【第5～8回で作成した学習指導案を模擬授業後に提出】 30% ●まとめレポート 30%			

授業科目名： 社会科・地理歴史科指導 法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川本 一也 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 学習指導要領の目標や内容等を理解することができる。 (2) 優れた社会科・地理歴史科の授業分析を通して、学習指導案(全体案)を作成することができる。 (3) 優れた授業を行うための授業設計や指導技術等を理解することができる。			
授業の概要 社会科・地理歴史科指導法Aで学んだことを基礎として、現場経験を生かしながら優れた社会科・地理歴史科の授業づくり・単元づくりや学習指導全体案の作成方法等について講義・演習をする。また、アクティブラーニングの視点を入れ、グループ討議等の時間を確保し、優れた社会科(地理・歴史的分野)の授業の記録を読むことで、単元づくりや発問・板書などといった指導技術等を学ぶ。さらに、単元づくりや学習指導案(全体案)の作成(必要に応じてICT活用を含む)の演習と模擬授業を行う。			
授業計画 第1回：優れた社会科・地理歴史科の授業 【主に講義】 第2回：授業分析の意義とその方法 【主に講義】 第3回：優れた社会科・地理歴史科の授業の記録を読もう(地理 抽生徒・気になる生徒を中心に) 【講義・演習】 第4回：優れた社会科・地理歴史科の授業の記録を読もう(地理2 分析の相互交流とグループ発表) 【講義・演習】 第5回：優れた社会科・地理歴史科の授業の記録を読もう(歴史 教師の出場・出方を中心に) 【講義・演習】 第6回：優れた社会科・地理歴史科の授業の記録を読もう(歴史 授業分析からの学びの相互交流・発表) 【講義・演習】 第7回：学習指導案(全体案)の意味と作成方法 【講義】 第8回：学習指導案(全体案)を作成しよう(地理1 単元目標・指導計画を中心に) 【演習】 第9回：学習指導案(全体案)を作成しよう(地理2 本時の目標・ICT活用も含めた指導過程を中心に) 【演習】 第10回：学習指導案(全体案)を作成しよう(歴史1 評価規準・教材分析を中心に) 【演習】 第11回：学習指導案(全体案)を作成しよう(歴史2 本時の板書計画・ICT活用も含めた指導過程を中心に) 【演習】 第12回：学習指導案(全体案)で模擬授業をしよう1 (地理提案者を中心に) 【演習】 第13回：学習指導案(全体案)で模擬授業をしよう2 (歴史提案者を中心に) 【演習】 第14回：地理・歴史を教える教師としての心構えとまとめレポート作成 【講義等】 定期試験 実施しない			
テキスト 中学校学習指導要領解説 (PDF)、高等学校学習指導要領解説 (PDF)			
参考書・参考資料等 「個の育成をめざす授業」山根栄次・市川則文・三重「個を育てる」授業研究会編 2010 三晃書房			
学生に対する評価 ●模擬授業 20% ●課題1【演習で実施した授業分析の内容をまとめ、第7回時にレポート提出<A4一枚>】20% ●課題2【第8-11回で作成した学習指導案全体案を模擬授業後、第13回終了時まで提出】30% ●まとめレポート 30%			

授業科目名： 社会科・地理歴史科 指導法C	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校 社会） 選択科目（高等学校 地理歴史）	単位数： 2単位	担当教員名：堀田隆長 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 社会科・地理歴史科の歴史・目標を知り、指導内容を理解することができる。</p> <p>(2) 教材研究や模擬授業を通して、授業力の基礎が身についている。</p> <p>(3) 教材や資料（情報機器）を適切に用いた授業設計をすることができる。</p>			
授業の概要			
<p>学習指導要領に言及しながら、社会科・地理歴史科の歴史的展開、目標、学習内容の変遷、課題などを考察することで、基本的な構造やその意義、実践上の諸課題を知る。</p> <p>中学校や高等学校の社会科・地理歴史科で生徒に育みたい資質・能力、その内容編成の特質や留意点、生徒が主体的に活動する授業構成（教材、発問、資料、課題探究学習、情報通信技術の活用等）を踏まえ、学習指導案（主に本時案）作成と模擬授業の演習を通して、求められる社会科授業づくり（特に主体的対話的で深い学び）の基礎基本を体得する。（アクティブラーニングの体験）</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（自分が体験した授業と評価の振り返り） 【講義 演習】 社会科の成立（初期社会科）～育みたい力とめざした世の中～			
第2回：社会科・地理歴史科とは何か 学習指導要領上における変遷と内容・ねらい 【講義】			
第3回：社会科・地理歴史科の実践に学ぶ 優れた実践の体験と考察 【講義・演習】			
第4回：社会科・地理歴史科の授業理論 話し合いと生徒理解 教材を中心に 【講義・演習】 話し合いと授業の三要素 児童生徒理解 三つの教材と授業の構成（指導過程）			
第5回：社会科・地理歴史科の授業理論 教師の発問 資料 板書を中心に 【講義・演習】 資料と発問 資料の種類と指導過程 板書の書き方			
第6回：指導案（本時案）を書く 写真や絵画資料と発問、指導過程等 【演習】			
第7回：指導案（本時案）を書く 文章資料や図表と発問、指導過程等 【演習】			
第8回：指導案（本時案）を書く 資料、指導過程の精査 板書計画等 【演習】			
第9回：模擬授業と振り返り 地理 世界の諸地域（アジア・アフリカ州） 【演習】			
第10回：模擬授業と振り返り 地理 世界の諸地域（EU 南北アメリカ州） 【演習】			
第11回：模擬授業と振り返り 歴史 日本の歴史（古代） 【演習】			
第12回：模擬授業と振り返り 歴史 日本の歴史（中世） 【演習】			
第13回：模擬授業の総括と生徒理解の大切さ 【講義・演習】			
第14回：講義全体の質疑応答 まとめのレポートの作成 【講義・演習】			

授業科目名： 社会科・地理歴史科 指導法D	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校 社会） 選択科目（高等学校 地理歴史）	単位数： 2単位	担当教員名：堀田隆長 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 「主体的・対話的で、深い学び」「課題探究学習」を促す指導技術を身につけている。</p> <p>(2) 学習指導案の作成・模擬授業を通して実践的で効果的な授業構成を体得するとともに、社会科教師としてのあるべき姿や心構えを自覚することができる。</p> <p>(3) 教材や情報機器を適切に活用し、社会科・地理歴史科の授業力を高めることができる。</p>			
授業の概要			
<p>学習指導要領を踏まえ、単元や本時の目標分析及び評価の考察、優れた社会科実践の授業記録の分析による生徒の捉え方や教師の出場・出方の考察、課題探究学習の構成や情報通信機器の活用方法などの授業構成に関わる実践的な講義や演習を行う。</p> <p>指導法Cの内容（教材、発問、資料、情報通信技術の活用等）を踏まえ、生徒が主体的に活動する授業（全体案・本時案とその評価）作成と模擬授業の演習を通して、求められる社会科授業づくり（アクティブラーニング・主体的対話的で深い学びと適切な評価）をおこなうとともに、あるべき教師の姿や心構えの自覚を促す。</p>			
授業計画			
第1回：優れた実践の体験と考察 学習指導要領と目標・評価の観点から 【講義・演習】			
第2回：社会科・地理歴史科の授業づくり 授業理論と指導案（全体案） 【講義・演習】			
指導法Cを踏まえて 特に情報通信機器の活用と全体案の内容			
第3回：実践に学ぶ 授業分析（地理 歴史）生徒の動きの分析と交流 【演習】			
第4回：実践に学ぶ 授業分析（地理 歴史）教師の出場出方の分析と交流 【演習】			
第5回：課題探究学習の内容と構成（地理探究 日本史探究 世界史探究） 【講義・演習】			
第6回：単元の構成・学習評価の考え方とその方法 【講義・演習】			
第7回：指導案（全体案）を書く 地理 目標と単元構成 指導について 評価 【演習】			
第8回：指導案（全体案）を書く 地理 本時の発問、指導過程 板書 【演習】			
第9回：指導案（全体案）を書く 歴史 目標と単元構成 指導について 評価 【演習】			
第10回：指導案（全体案）を書く 歴史 本時の発問、指導過程 板書 【演習】			
第11回：模擬授業と振り返り 地理的分野希望者 日本の地理 【演習】			
第12回：模擬授業と振り返り 歴史的分野希望者 日本の歴史 【演習】			
第13回：模擬授業の総括と教師の心構え 【講義・演習】			
第14回：講義全体の質疑応答 まとめのレポートの作成 【講義・演習】			

授業科目名： 自然地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：廣内大助 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 日本の地形の成り立ちや、人々の暮らしと地形の関わりを文化や災害を通じて理解できるようになる。 地形の形成や地形と人間活動の関わりについて理解を深める。 			
授業の概要			
<p>私たちの生活の足元にある平野や台地といった地形は、長い時間の中で、海面変化や気候変化などを経て形成されたものである。そして人々は昔から地形を上手に活用しながら生活を営んできた。本講義では、身のまわりに存在する様々な地形に注目し、その特徴や形成環境などについて詳しく述べる。また実際に地形図の読図や利用法などを、地形図や航空写真を用いた作業を通して習得し、それらの資料から読みとることのできる地形の特徴、村落立地や地域における人間活動の影響と自然環境の変遷などを考察する。またそれらに加えて、過去数万年間の地形形成史や環境変遷史、環境変化と人間活動との関わりについても解説する予定である。</p>			
授業計画			
第1回：地形図とその利用			
第2回：地形を作る力			
第3回：川をつくる地形（山中にできる地形）			
第4回：川をつくる地形と人々の暮らし（扇状地）			
第5回：川をつくる地形と人々の暮らし（自然堤防帯・三角州）			
第6回：低地の地形分類と水害予測			
第7回：河成段丘の分類			
第8回：河成段丘の形成と地殻変動			
第9回：河成段丘の形成と気候変動			
第10回：海岸地形とその変化			
第11回：海成段丘と海岸平野			
第12回：第四紀における氷河性海面変動			
第13回：日本周辺における海面変化と気候変化			
第14回：気候変化と文明の盛衰			
定期試験			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

参考書：気候が文明を変える 岩波科学ライブラリー 安田喜憲

平野と海岸を読む 岩波書店 貝塚爽平

学生に対する評価

不定期に実施する小課題によって、時間ごとの理解度を検証する。この小課題(約2割)と期末試験(約8割)の合算によって評価を行う。

授業科目名： 地誌学各論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤（竹中）由香
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標： 地誌学的な視点・方法を応用し，地域の構成要素の関係性を理解した上で，地域の特性を読み解くことができるようになる。			
授業の概要： 地誌学とは，地域を研究対象とする地理学の方法論の1つであり，地域を構成する自然的要素（地形，気候，水文など）と人文的要素（人口，都市・農村，産業，文化など）の関係性から地域の総合的理解を目指す学問である。各論に相当するこの授業では，ヨーロッパを対象に「食」を1つのテーマ軸から，自然環境・農業・都市・観光・工業・エスニック集団・グローバル化など諸現象を掘り下げ，ヨーロッパの地誌を紐解いていく。その上で，受講者は日本における身近な食を対象に，食と地域の関係性についてのプレゼンテーションを行う。このように対象エリアとテーマを特定することで，地域を地誌学的にとらえる視点や方法論についてより具体的・経験的に学ぶのが，この授業のねらいである。			
授業計画 第1回：イントロダクション「地誌的な見方・考え方とは？」 第2回：ヨーロッパの地域性を食卓で読み解く（総論） 第3回：自然と農業をムギと油脂で読み解く（自然環境と農業） 第4回：農村の変化をジャガイモで読み解く（農村） 第5回：都市の景観を砂糖で読み解く（都市） 第6回：観光地の発展をミネラルウォーターで読み解く（観光） 第7回：工業化をビールで読み解く（工業） 第8回：多文化社会をエスニック料理で読み解く（民族） 第9回：地域の個性化をトウモロコシで読み解く（文化） 第10回：グローバル化をコーヒーで読み解く（グローバル化） 第11回：ヨーロッパを食で読み解く（まとめ），プレゼンテーションに関する説明 第12回：受講者によるプレゼンテーション① 第13回：受講者によるプレゼンテーション② 第14回：受講者によるプレゼンテーション③ 定期試験			
テキスト： 加賀美雅弘（著）『食で読み解くヨーロッパ—地理研究の現場から—』，朝倉書店，2019年			
参考書・参考資料等： 毎回，教科書に沿った授業資料をポータルサイト（manaba）に掲載する。			
学生に対する評価： プレゼンテーション（50%）＋試験（50%）＝合計100%			

授業科目名： 情報社会論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩崎公弥子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 情報社会の概念や変革、テクノロジーの進展が社会に与える影響について理解し、情報時代において主体的に活動できる力を身につける。			
授業の概要 「情報社会論」の授業では、情報社会の概念や変革、テクノロジーの進展が社会に与える影響に焦点を当てる。デジタルメディアやネットワークの役割、情報フローの分析などを通じて、情報が社会に及ぼす経済、文化、政治的な側面に洞察を深めていく。加えて、情報技術の進化により変化する職業環境や、情報を効果的に活用するための方法についても習得する。授業は講義、ディスカッション、ケーススタディなどを組み合わせ、情報社会の理解を促進し、情報時代において主体的に活動できる力を養う。			
授業計画 第1回：情報社会の概念と歴史的背景 第2回：デジタル化と社会構造の変化 第3回：ソーシャルメディア社会の誕生 第4回：ネット時代の広告ビジネス 第5回：プライバシーと情報セキュリティ 第6回：ビッグデータと社会 第7回：人工知能の社会への応用 第8回：人工知能がもたらす社会変革 第9回：知識社会における情報倫理 第10回：デジタル時代の教育と学習の変化 第11回：Society5.0が実現する未来 第12回：ソーシャルシティ 第13回：情報社会におけるキャリアデザイン 第14回：情報社会の未来と持続可能な発展 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

毎回の授業の最後に提出する小課題（60%）、小レポート（40%）

授業科目名： 情報倫理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川元洋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 情報倫理の考え方について理解し、業務や日常生活で適切に情報を取り扱うための判断力を身につける。			
授業の概要 情報システムを利用する者が知っておくべき、情報倫理全般について取り扱う。日常におけるSNSの利用上のマナー、パスワードの管理、不正アクセス等の日常生活で必要となる知識に加え、「(1) 個人情報保護法やEU一般データ保護規則(GDPR)など、データを取り巻く国際的な動き」「データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理」「データ駆動型社会における脅威(リスク)について」「個人のデータを守るために留意すべき事項」なども取り扱う。問題発見能力・問題解決能力を高めるために、PBL (Problem Based Learning)、QFT (Question Formulation Technique)、QDL (Question Driven Learning)の手法を用いた演習も行う。			
授業計画 第1回：情報社会における情報倫理の重要性 第2回：個人情報保護制度の概要 第3回：データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理 第4回：著作権、商標権等の知的財産権について 第5回：コンピュータウイルス等のマルウェア感染が疑われる場合の対応等 第6回：コンピュータウイルス等のマルウェア感染によるシステム障害の事例研究 第7回：ECサイトのセキュリティ対策等 第8回：組織的な情報セキュリティ対策 第9回：業務委託先への要求事項等 第10回：サイバー攻撃を想定した演習 第11回：情報セキュリティリスクアセスメント 第12回：社会、企業で起きている情報倫理に関する問題事例の研究 第13回：情報倫理に関する研修プログラムの設計演習 第14回：試験とまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

授業に使用する資料は、PDFファイル、または、紙で配付する。

(参考) デジタル教材 東京書籍「情報社会のモラル&リテラシー」(学内ネットワークで利用)

(参考) 図書館が契約している新聞データベース、判例データベース

(参考) e-Gov 法令検索 <https://elaws.e-gov.go.jp/>

学生に対する評価

授業への参加度(授業内での討論、グループ活動への貢献度) 40%

課題 20% テスト 40%

授業科目名： メディア論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：遠藤潤一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 さまざまなメディアの特性を知り，メディアと人やコンテンツとの関係性を理解する。			
授業の概要 この授業ではメディアという概念を捉え，先史時代から最新の電子メディアまで解説する。マクルーハンの『メディア論』を参考としながら，メディアの歴史や技術，特性とその影響が人やコンテンツにどう影響を与えたのかを多面的に理解する。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：身体と文字 第3回：活字と写真 第4回：映画の歴史と発展 第5回：電信とラジオ 第6回：テレビとその産業構造 第7回：メディアの感覚比率（ホットとクール） 第8回：メディアリテラシーと身体性の変化 第9回：コンピュータと個人の拡張 第10回：巨大プラットフォームとプライバシー 第11回：メディアとコンテンツ 第12回：メディアとしての現代アート 第13回：新しいメディアへの対応 第14回：全体のまとめと確認テスト			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 マーシャル・マクルーハン，栗原 裕・河本 仲聖(訳)『メディア論』みすず書房（1987）			
学生に対する評価 確認テスト40%，授業後テストと授業コメント50%，レポート10%			

授業科目名： 知的財産法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小川明子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 特許法及び著作権法における基本的な理論および概念を理解し、具体的な事象や事件に対して関連する法的問題点を指摘できる。			
授業の概要 産業の高度化や社会の情報化が進む中で、知的財産法の重要性がますます高まっている。知的財産法は、知的財産を守る法律をまとめて言う総称であり、その中には、特許法、意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法などが含まれる。 この科目では、講義形式により、知的財産法のうち、技術的思想である発明の保護と利用をはかり、産業の発達に寄与することを目的とする特許法、並びに文化的所産である著作物などを保護し、文化の発展に寄与することを目的としている著作権法の体系やあり方を学ぶ。国内外における事象や事件を取り上げ、発明及び著作物の保護と利用の適正なバランスをどのようにとるべきかを検討する。 特許法及び著作権法における基本的な理論および概念を理解し、説明することができること、及び、具体的な事象や事件に対して、関連する特許法及び著作権法上の法的問題点を指摘できることを目標とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス—知的財産法概説 第2回：特許法1—発明該当性、特許要件 第3回：特許法2—発明者の認定、特許を受ける権利及び冒認出願 第4回：特許法3—従業者発明 第5回：特許法4—特許発明の技術的範囲、均等論 第6回：特許法5—特許権の効力と消尽 第7回：特許法6—特許取得手続、審決取消訴訟 第8回：特許法7—侵害救済手続 第9回：著作権法1—著作権法の概要と著作物 第10回：著作権法2—「複製」「翻案」概念と二次的著作物 第11回：著作権法3—著作者 第12回：著作権法4—著作財産権 第13回：著作権法5—保護期間と権利制限規定 第14回：著作権法6—著作者人格権、侵害救済手続			

テキスト

山口大学大学研究推進機構知的財産センター『これからの知財入門』（日経BP、第4版、2023年）

参考書・参考資料等

高林龍『標準特許法』（有斐閣、第8版、2023年）、高林龍『標準著作権法』（有斐閣、第5版、2022年）

学生に対する評価

期末レポート 50%

中間レポート 30%

リアクションペーパーを含む平常点 20%

授業科目名： デザイン保護法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小川明子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 意匠法を中心とするデザインに関連する法律の基本的な理論や概念を理解し、具体的な事象や事件に対して関連する法的問題点を指摘できる。			
授業の概要 現代社会において、機能的、技術的な側面から製品同士を差別化することは一層困難なものとなりつつあり、市場においてはデザインの重要性がますます高まりつつある。こうした市場の現実を背景として、それを保護する法制度にも注目が集まっている。 この科目では、講義形式により、様々なデザイン分野が存在する中で、デザインのいかなる側面についてどのような法律が関係するのかの概要を学ぶとともに、デザインの創作をより促すための望ましい法制度の在り方を検討する。意匠法を中心とするデザインに関連する法律の基本的な理論や概念を理解し、説明することができること、及び、具体的な事象や事件に対して、関連する法的問題点を指摘できることを目標とする。			
授業計画 第1回：ガイダンスーデザインと知的財産法 第2回：意匠法1ー特許法・著作権法と比較してみる意匠法 第3回：意匠法2ー意匠とは何か 第4回：意匠法3ー意匠登録の要件 第5回：意匠法4ー意匠の類否判断 第6回：意匠法5ー意匠権侵害をめぐる攻防 第7回：著作権によるデザイン保護1ー著作権保護の概要 第8回：著作権によるデザイン保護2ー応用美術の保護と意匠法 第9回：不正競争防止法2条1項3号とデザイン保護 第10回：商標法1ー商標とブランド 第11回：商標法2ー識別力 第12回：商標法3ー不登録事由 第13回：商標法4ー立体商標と識別力、不登録事由 第14回：商標法5ー商標権侵害			
テキスト 山口大学大学研究推進機構知的財産センター『これからの知財入門』（日経BP、第4版、2023年）			

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート 50%

中間レポート 30%

リアクションペーパーを含む平常点 20%

授業科目名： 情報処理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤智也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータの構成要素やOSの役割、インターネットを中心としたコンピュータネットワークを構成する技術を理解し、説明できる。			
授業の概要 高度情報化社会において、我々はさまざまな情報機器を利用しており、生活するための基盤やサービスは情報処理技術によって制御されている。そこで、社会基盤を支える情報処理システムの仕組みを理解できるよう、コンピュータの構成、ネットワーク技術、およびITを活用した経営戦略などにかかわる知識を幅広く提供する。なお、ITパスポート試験や基本情報技術者試験(国家資格)にも役立つよう出題傾向も踏まえ、その対策も考慮しつつ授業を展開する。			
授業計画 第1回：授業の概要 第2回：コンピュータ構成要素(1)：命令実行の仕組み、CPU 第3回：コンピュータ構成要素(2)：メモリ、入出力装置 第4回：ソフトウェア 第5回：ネットワーク(1)：種類と特徴 LAN、機器構成、通信の仕組み 第6回：ネットワーク(2)：インターネット技術 第7回：中間試験と解説 第8回：情報デザイン、情報メディア 第9回：基礎理論 第10回：データ分析、表計算 第11回：企業と法務 第12回：経営戦略 第13回：情報技術の動向 第14回：期末試験とまとめ			
テキスト ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 (FOM出版)			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する			
学生に対する評価 期末試験(40%)、中間試験(12%)、毎回の授業の最後に提出する小テスト(48%)			

授業科目名： プログラミング基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大坪 克俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 プログラミングの基本的な概念と基礎技術を理解し、問題解決のために必要なプログラミングを 実践するための基礎力を身に付ける。			
授業の概要 本授業では、第一に、「Scratch」などのビジュアルプログラミング言語による演習を通して、 プログラミングの基本的な概念について理解する。第二に、「Python」などのテキストプロ グラミング言語による演習を通して、実践的なプログラミングの基礎技術を身に付ける。			
授業計画 第1回：ガイダンス・プログラミングの基本 第2回：Scratchの基本 第3回：Scratchを用いたプログラミング1（制御、変数、リスト） 第4回：Scratchを用いたプログラミング2（メッセージ、クローン） 第5回：Scratchを用いた課題 第6回：Pythonの基礎1（特徴・環境構築） 第7回：Pythonの基礎2（記述方法） 第8回：Pythonの基本文法1（変数・演算子） 第9回：Pythonの基本文法2（制御構造） 第10回：Pythonの基本文法1（関数） 第11回：Pythonの基本文法1（ライブラリ） 第12回：Pythonの基本文法1（ファイル入出力） 第13回：Pythonを用いた課題 第14回：講評会 定期試験 なし			
テキスト 授業中に指定する。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 授業で作成したファイルの提出（課題の回をのぞく毎回）：40% Scratchを用いた課題（第5回）：20%			

Pythonを用いた課題（第13回）：40%

授業科目名： プログラミング基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤智也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 プログラミングの基本的な概念と基礎技術を理解し、問題解決のために必要なプログラミングを 実践するための基礎力を身に付ける。			
授業の概要 本授業では、第一に、「Scratch」などのビジュアルプログラミング言語による演習を通して、 プログラミングの基本的な概念について理解する。第二に、「Python」などのテキストプロ グラミング言語による演習を通して、実践的なプログラミングの基礎技術を身に付ける。			
授業計画 第1回：ガイダンス・プログラミングの基本 第2回：Scratchの基本 第3回：Scratchを用いたプログラミング1（制御、変数、リスト） 第4回：Scratchを用いたプログラミング2（メッセージ、クローン） 第5回：Scratchを用いた課題 第6回：Pythonの基礎1（特徴・環境構築） 第7回：Pythonの基礎2（記述方法） 第8回：Pythonの基本文法1（変数・演算子） 第9回：Pythonの基本文法2（制御構造） 第10回：Pythonの基本文法1（関数） 第11回：Pythonの基本文法1（ライブラリ） 第12回：Pythonの基本文法1（ファイル入出力） 第13回：Pythonを用いた課題 第14回：講評会 定期試験 なし			
テキスト 授業中に指定する			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 授業で作成したファイルの提出（課題の回をのぞく毎回） 40% Scratchを用いた課題（第5回） 20%			

Pythonを用いた課題（第13回） 40%

授業科目名： プログラミング基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：遠藤 麻里 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 プログラミングの基本的な概念と基礎技術を理解し、問題解決のために必要なプログラミングを 実践するための基礎力を身に付ける。			
授業の概要 本授業では、第一に、「Scratch」などのビジュアルプログラミング言語による演習を通して、 プログラミングの基本的な概念について理解する。第二に、「Python」などのテキストプロ グラミング言語による演習を通して、実践的なプログラミングの基礎技術を身に付ける。			
授業計画 第1回：ガイダンス・プログラミングの基本 第2回：Scratchの基本 第3回：Scratchを用いたプログラミング1（制御、変数、リスト） 第4回：Scratchを用いたプログラミング2（メッセージ、クローン） 第5回：Scratchを用いた課題 第6回：Pythonの基礎1（特徴・環境構築） 第7回：Pythonの基礎2（記述方法） 第8回：Pythonの基本文法1（変数・演算子） 第9回：Pythonの基本文法2（制御構造） 第10回：Pythonの基本文法1（関数） 第11回：Pythonの基本文法1（ライブラリ） 第12回：Pythonの基本文法1（ファイル入出力） 第13回：Pythonを用いた課題 第14回：講評会 定期試験 なし			
テキスト 授業中に指定する			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 授業で作成したファイルの提出（課題の回をのぞく毎回） 40% Scratchを用いた課題（第5回） 20%			

Pythonを用いた課題（第13回） 40%

授業科目名： ヴィジュアルプログ ラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：遠藤 麻里 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 プログラミングを用いたヴィジュアルデザインを理解し、「作品」の完成を目指す。			
授業の概要 この授業では、プログラミングの新しい可能性を広げることを狙いとする。プログラミング言語にはProcessingを用い、Javaの基本を学ぶとともに、プログラミングを用いたヴィジュアルデザインを理解し、作品制作を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス・ヴィジュアルプログラミングの基本 第2回：Processing導入・図形の描画（基本図形） 第3回：図形の描画（応用図形） 第4回：変数 第5回：for文による繰り返し 第6回：乱数 第7回：if文による条件分岐 第8回：配列 第9回：座標と回転 第10回：3D図形の描画 第11回：制作課題1（テーマの選定） 第12回：制作課題2（プログラミングによる実装） 第13回：制作課題3（プログラミングによる実装とデバッグ） 第14回：制作課題4（デバッグと発表準備）・講評会 定期試験 なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 制作課題（60％） 各回の小課題（40％）			

授業科目名： データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤智也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 アルゴリズムとデータ構造との関係性を理解し、両者を適切に設計することにより、プログラムが正しく効率的に動作することを評価できる。			
授業の概要 コンピュータによる問題解決では、解決のための処理手順であるアルゴリズムと、それを実現するためのデータ構造を適切に組み合わせる必要がある。本授業では、キュー、ツリー、配列、リスト、スタックなどの基本的なデータ構造の概念、データ構造に対する要素の挿入や削除などの基本操作、探索、整列などの基本的なアルゴリズムや、効率的なアルゴリズムの設計技法および性能解析について学ぶ。なお、特定のプログラミング言語への依存を極力避けて、プログラムを作成する上で基本となる考え方について理解する。			
授業計画 第1回：アルゴリズムとは、プログラミングとの関係 第2回：変数と配列 第3回：アルゴリズムで使われるデータ構造 第4回：アルゴリズムの記述方法（フローチャート、疑似言語） 第5回：基本的なアルゴリズム 第6回：線形探索法、二分探索法 第7回：ハッシュ探索法、単純選択法 第8回：単純交換法、単純挿入法、シェルソート 第9回：マージソート、ヒープソート、クイックソート 第10回：エラトステネスのふるい 第11回：ユークリッドの互除法 第12回：再帰的アルゴリズム、ハノイの塔 第13回：疑似言語を使った演習 第14回：期末試験			
テキスト アルゴリズムを、はじめよう（伊藤静香著、インプレス）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

期末試験（48%）、毎回の授業の最後に提出する小テスト（52%）

授業科目名： プログラミング応用 A（スマートフォン アプリ開発）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大坪 克俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、MacとiPhoneを用いた演習を通して、スマートフォンアプリ開発の基本的な概念と基礎技術を学び、簡単なオリジナルのアプリを開発するための基礎力を身に付ける。			
授業の概要 第一に、Swift Playgroundsを用いたプログラミング演習によって、iPhoneアプリの開発言語であるSwiftによるプログラミングの基礎知識と技術を学ぶ。第二に、Xcodeなどの統合開発環境による実践的なサンプルアプリのプログラミング・エミュレーション・実機実験の演習を行う。			
授業計画 第1回：Swiftの概要 第2回：定数と変数 第3回：関数 第4回：構造体 第5回：プロパティとメソッド 第6回：条件分岐 第7回：配列とループ 第8回：確認テスト、まとめ 第9回：SwiftUIの概要 第10回：じゃんけんアプリの作成 第11回：楽器アプリの作成 第12回：マップ検索アプリの作成 第13回：最終課題の制作 第14回：最終課題の発表 定期試験 なし			
テキスト まるごと分かるSwiftプログラミング（新井進鎬、工学社）			
参考書・参考資料等 参考書：たった2日でマスターできるiPhoneアプリ開発集中講座（藤 治仁／小林 加奈子／小			

林 由憲、ソシム株式会社)

参考資料：随時配布する。

学生に対する評価

小テスト（第8・14回を除く毎回）：40%

確認テスト（第8回）：30%

最終課題（第14回）：30%

授業科目名： 情報工学基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大坪 克俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、情報工学の基礎知識と技術を学び、社会的意義を理解し、応用のための基礎力を身に付ける。			
授業の概要 第一に、社会工学的観点から社会の多様なシステムに関する各論を学ぶ。第二に、金融工学や医療統計学に関するデータサイエンスの各論を学ぶ。第三に、高度情報化社会の最先端システムに必要な通信ネットワーク技術に関する各論を学ぶ。最後に、人や社会に優しく安心・安全なシステム設計を行うためのインテリジェントシステムの各論を学ぶ。			
授業計画 第1回：情報工学の概要 第2回：情報通信ネットワーク 第3回：eラーニング 第4回：映像メディア処理 第5回：確率現象の解析と設計 第6回：モンテカルロ法とデータサイエンス 第7回：医療を発展させる統計学 第8回：確認テスト①、まとめ 第9回：ソフトウェア工学 第10回：信号処理 第11回：情報理論と符号化の基礎 第12回：人工知能 第13回：最終課題の制作 第14回：確認テスト②、まとめ 定期試験 なし			
テキスト 理工系の基礎 情報工学（情報工学 編集委員会、丸善出版）			
参考書・参考資料等 参考書：なし 参考資料：随時配布する。			
学生に対する評価			

小テスト（第8・14回を除く毎回）：40%

確認テスト①（第8回）：30%

確認テスト②（第14回）：30%

授業科目名： コンピュータアーキテクチャ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：牛田博英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 ・ コンピュータ各部の構成と機能について理解し、説明できる。 ・ コンピュータ処理を効率化・高速化する手法を理解し、説明できる。			
授業の概要 コンピュータの基本構造と機能に焦点を当て、コンピュータ各部の構成・機能、および、コンピュータ処理を効率化・高速化する手法について説明する。まず、コンピュータアーキテクチャの歴史的背景から現代の進化に至るまでを概観する。次にノイマン型コンピュータの基本原則を始点に、OS、CPU、メモリ、バス、各種ドライブなどのコンピュータを構成する重要な要素の役割、および、CPU管理、メモリ管理、ディスク管理などOSの機能を詳細に解説する。			
授業計画 第1回：コンピュータ発展の歴史 第2回：ノイマン型アーキテクチャ 第3回：論理回路 第4回：オペレーティングシステムの役割 第5回：プログラミングインタフェース 第6回：割り込みアーキテクチャ 第7回：入出力アーキテクチャ 第8回：ストレージシステム 第9回：ファイル管理 第10回：プロセス管理 第11回：メモリ管理 第12回：命令セットアーキテクチャ 第13回：パイプラインアーキテクチャ 第14回：試験とまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 manabaで適宜資料を配付する。			
学生に対する評価			

定期試験（50%）、毎回の授業で実施する小テスト（50%）

授業科目名： 情報システム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤智也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム		
授業のテーマ及び到達目標 システム開発のプロセス、データベース設計、システムの信頼性・性能評価、情報セキュリティについて理解し、説明できる。			
授業の概要 高度情報化社会において、我々はさまざまな情報機器を利用しており、生活するための基盤やサービスは情報処理技術によって制御されている。そこで、社会基盤を支える情報処理システムの仕組みを理解できるよう、データベース、セキュリティ、情報システム、および開発におけるマネジメントなどにかかわる知識を幅広く提供する。なお、ITパスポート試験や基本情報技術者試験(国家資格)にも役立つよう出題傾向も踏まえ、その対策も考慮しつつ授業を展開する。			
授業計画 第1回：授業の概要 第2回：システム構成要素 第3回：データベース(1)：方式、設計 第4回：データベース(2)：データ操作、SQL 第5回：データベース(3)：トランザクション処理 第6回：システム開発技術 第7回：中間試験と解説 第8回：セキュリティ(1)：脅威、管理 第9回：セキュリティ(2)：対策、実装技術 第10回：アルゴリズム、プログラミング 第11回：システム戦略 第12回：プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント 第13回：情報技術の動向 第14回：期末試験とまとめ			
テキスト ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 (FOM出版)			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する			
学生に対する評価			

期末試験（40％）、中間試験（12％）、毎回の授業の最後に提出する小テスト（48％）

授業科目名： 情報ネットワーク論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：牛田博英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報ネットワークに関する用語を正しく定義でき、説明できる。 ・ネットワークの基本的な仕組みを理解し、説明できる。 ・IPアドレスの仕組みと通信方法を理解し、説明できる。 			
授業の概要			
<p>インターネットの基本的な概念、技術、歴史、および情報セキュリティについて学ぶ。LANやパケット交換の基本原則から始め、インターネットの核となる技術であるTCP/IPプロトコルやイーサネットについて詳しく学ぶ。プロトコルの階層化と標準化の重要性を理解し、イーサネットの仕組みと規格について掘り下げる。ネットワークにおけるスイッチ、ハブ、ルータなどの機器の役割と動作原理について学び、IPアドレスの概念、ポート番号、TCP/IPパケットの構造、NATとIPマスカレードについて詳述する。</p>			
授業計画			
第1回：インターネットの歴史			
第2回：ネットワークの基礎知識			
第3回：プロトコルの階層化と標準化			
第4回：イーサネット			
第5回：ネットワーク機器			
第6回：TCP/IP（インターネット層）			
第7回：TCP/IP（トランスポート層）			
第8回：DNS			
第9回：無線LAN			
第10回：情報セキュリティの必要性			
第11回：ネットワークの監視と冗長化			
第12回：情報セキュリティマネジメント			
第13回：暗号化技術、電子証明書、電子署名			
第14回：試験とまとめ			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
manabaで適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

定期試験（60%）、毎回の授業で実施する小テスト（40%）

授業科目名： 情報セキュリティ論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川元洋
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標 情報セキュリティについて理解し、業務や日常生活で活用できる判断力を身につける。			
授業の概要 情報社会に生きる者に必要とされる情報セキュリティに、日常におけるSNSの利用上のマナー、パスワードの管理、不正アクセス等の日常生活で必要となる知識に加え、情報システムを業務で使用する上での具体的な問題事例をもとに学習する。また、国家試験 情報セキュリティマネジメント試験の受験を推奨する。			
授業計画 第1回：情報セキュリティの基礎知識 第2回：情報セキュリティ技術 第3回：情報セキュリティ管理 第4回：情報セキュリティ対策 第5回：情報セキュリティに関する法務 第6回：情報セキュリティに関するマネジメント 第7回：情報セキュリティに関するテクノロジー・PBLによる対応の演習（コンピュータウイルス等のマルウェア感染時の対応等） 第8回：情報セキュリティに関するストラテジー・PBLによる対策の演習（コンピュータウイルス等のマルウェア感染時の対応等） 第9回：PBLによる対応の演習（ECサイトのセキュリティ対策等） 第10回：PBLによる対応の演習（業務委託先への要求事項等） 第11回：PBLによる対応の演習（サイバー攻撃を想定した演習） 第12回：PBLによる対応の演習（マルウェア感染を防止するための対策等） 第13回：情報セキュリティ研修プログラムの条件の検討 第14回：試験とまとめ			
テキスト 徹底攻略 情報セキュリティマネジメント教科書、インプレス			
参考書・参考資料等 授業に使用する資料は、PDFファイル、または、紙で配付する。 （参考）デジタル教材 東京書籍「情報社会のモラル&リテラシー」（学内ネットワークで利用）			

(参考) 図書館が契約している新聞データベース、判例データベース

(参考) e-Gov 法令検索 <https://elaws.e-gov.go.jp/>

学生に対する評価

授業への参加度 (授業内での討論、グループ活動への貢献度) 10%

問題演習課題 45%

テスト 45%

授業科目名： デザイン論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：遠藤潤一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 情報デザインの基礎的な理論を理解し、分かりやすい表現ができるようになる。			
授業の概要 本講義ではデザインを「見ること」、「理解すること」、「表現すること」を通してデザインを総合的に学習する。日常に潜むデザインへの気づきや観察の方法や理論や歴史、デザイン思考などを学び、実際に発表資料をデザインすることで実践できる力を身につける。			
授業計画 第1回：イントロダクション、デザインとは何か 第2回：デザインの観察 第3回：観察からのデザイン 第4回：認知心理学と人間中心デザイン 第5回：ユニバーサルデザイン 第6回：デザインの歴史（1）（近代デザイン、グラフィック、プロダクト） 第7回：デザインの歴史（2）（コンピュータ、UI/UX、デザインの拡張） 第8回：情報デザインの基礎 第9回：情報デザインのプロセス 第10回：デザインの実践（1）（レイアウトを作る） 第11回：デザインの実践（2）（ビジュアルを整える） 第12回：デザインの実践（3）（仕上げる） 第13回：デザインの相互レビュー 第14回：まとめと最終確認テスト			
テキスト 遠藤潤一、齋藤芳子『研究発表のための情報デザイン入門-スライドとポスターを効果的につくる-』中部日本教育文化会、2018			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 確認テスト40%、授業後テストと授業コメント40%、課題20%			

授業科目名： モデル化とシミュレーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大坪 克俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業では、オペレーションズリサーチ（OR）の基礎知識と技術を学び、数学的・統計学的モデルやアルゴリズムを用いて、様々な分野の計画（問題）に対して最も効率的な解法を見出す技術を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第一に、一般的な問題解決の手法であるモデル化やシミュレーションについて、基礎理論、モデル化、シミュレーションの具体的な手順について学ぶ。第二に、具体的な事例や現象を取り上げ、実際にモデル化とシミュレーションを行うことにより、具体的な適用方法を学ぶ。また、授業では主にMicrosoft Excelを用いて学習するため、その操作や利用法についても復習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オペレーションズリサーチ（OR）の概要</p> <p>第2回：シミュレーション</p> <p>第3回：変動量と統計</p> <p>第4回：疑似乱数の作成と検定</p> <p>第5回：計画の検討</p> <p>第6回：決定問題</p> <p>第7回：確認テスト①、まとめ</p> <p>第8回：在庫問題（1）新聞の売り子問題・定期発注方式</p> <p>第9回：在庫問題（2）発注点発注方式</p> <p>第10回：待ち行列問題（1）提示到着＋ランダムサービス</p> <p>第11回：待ち行列問題（2）複数窓口のシミュレーション</p> <p>第12回：応用（1）ウサギとキツネの生態系</p> <p>第13回：応用（2）森林火災</p> <p>第14回：確認テスト②、まとめ</p> <p>定期試験 なし</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

参考書：Excelで学ぶ 経営科学入門シリーズIV シミュレーション（荒木勉／栗原和夫、実教出版）

参考資料：随時配布する。

学生に対する評価

小テスト（第7・14回を除く毎回）：40%

確認テスト①（第7回）：30%

確認テスト②（第14回）：30%

授業科目名： Webデザイン技術A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤智也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 Webの仕組みや役割、およびWebデザインに必要となる手順や概念、Webページの作成と投稿、運用について理解し実践できる。			
授業の概要 現代の重要な情報発信の手段になっているWebの仕組みを理解し、実習を通じてWebサイトの制作技法を学ぶ。具体的には、Webデザインに必要となる基本的なルールやコーディングの方法を学習し、実制作のフローに沿ってWebサイトを制作することにより、HTML・CSSの実践的な使い方を習得し、サイトの公開や運用に関する知識までを身につける。			
授業計画 第1回：授業の概要 第2回：Webサイトの仕組み、構築の流れ 第3回：HTMLの基本 第4回：CSSの基本 第5回：リスト、ナビゲーションメニュー、リンク 第6回：レスポンシブWebデザイン 第7回：Webページの検証、公開、運用 第8回：表、サイドメニュー 第9回：Webサービスの活用 第10回：フォーム 第11回：JavaScript 第12回：最終成果物の設計 第13回：最終成果物のコーディング 第14回：最終成果物の発表、まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト はじめての HTML&CSS コーディング (FOM出版)			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 最終成果物の発表・出来 (61%)、毎回の授業の最後に提出する成果物 (39%)			

授業科目名： 映像コンテンツ制作技術	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：後藤昌人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 映像コンテンツ制作の基礎知識、機材の基本操作、番組を構成し制作する技術を身につけている。			
授業の概要 本授業では、番組制作技術を習得することを目的とする。インタビュー、ドキュメンタリー、バラエティーなど、番組制作の基本知識と基本テクニックを学ぶ。番組内で使用するVTR等は、大学や愛知県内を中心に取材対象や撮影場所を決め、実際にスタジオや学外での取材・撮影をして制作する。スタジオで収録した番組は、YouTube等での配信を想定する。デジタルコンテンツの企画から配信に至るプロセスを実際に体験しながら技術を習得する授業である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、映像コンテンツ制作の基本とスタジオ機材の説明、チーム決め 第2回：スタジオ機材操作の習得と役割1（ディレクター、MC、カメラ、VE、ミキサー、スイッチャー、テロップの基本など） 第3回：スタジオ機材操作の習得と役割2（チームマネジメント、クロマキー合成など） 第4回：番組企画について 第5回：制作1（番組企画） 第6回：制作2（進行表作り、台本作り、取材交渉、VTR制作） 第7回：制作3（テロップ、サウンドロゴ制作、音入れ練習） 第8回：制作4（撮影1、VTR制作）*チームによって日程は適宜調整 第9回：制作5（撮影2、VTR制作、小道具等）*チームによって日程は適宜調整 第10回：チーム1のリハーサル 第11回：チーム1の番組収録・配信、チーム2、3のリハーサル 第12回：チーム2の番組収録・配信、編集作業（ナレーション入れ、音楽編集など） 第13回：チーム3の番組収録・配信、編集作業（映像の書き出し、完パケ作業など） 第14回：完成番組の鑑賞、講評			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する			

学生に対する評価

企画構成 20%、撮影技術 20%、編集技術 20%、表現力 20%、チームへの貢献度 20%

チームでの取り組みのため、遅刻や欠席は厳しくチェックする。

授業科目名： CG-VR論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：遠藤潤一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 CGやVRの技術や表現方法を理解し、開発や設計に必要となる知識を修得する。			
授業の概要 この授業ではCG(コンピュータグラフィックス)やVR(バーチャルリアリティ)の基本原理や技術を学習し、映像制作作品に活用する方法を理解する。基本知識として、CGにおいては、3DCGソフトウェアの基本、モデリング、リギング、アニメーション、ライティング、レンダリングなどの要素技術を理解する。VRに関しては、人の心理や認知に関する感覚やVRディスプレイ、VRコンテンツ、VRインタフェースなどの要素技術を理解する。さらに、実際にCGやVRが社会においてどのような役割を果たすのかについて、実社会の事例や業界動向を解説しながら、社会的な影響についても考察する。この授業を通じてCG系技術資格の取得も目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス、社会におけるCG, VR 第2回：デジタル画像処理 第3回：3DCG（1）（モデリング、マテリアル） 第4回：3DCG（2）（レンダリング） 第5回：3DCG（3）（ライティング、カメラ） 第6回：CGアニメーション 第7回：CGシーンの合成と編集 第8回：CG, VRのシステム 第9回：前半のまとめと確認テスト 第10回：3DCG, VRの利活用 第11回：グループワーク（1）（テーマの決定） 第12回：グループワーク（2）（資料の整理、まとめ） 第13回：グループワーク（3）（プレゼン資料の作成） 第14回：最終プレゼンテーション			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 入門CGデザイン-CG制作の基礎-[改訂新版], 公益財団法人 画像情報教育振興協会 (2020)			
学生に対する評価			

確認テスト40%, 授業後テストと授業コメント40%, 課題（プレゼンテーションとレポート）20
%

授業科目名： 3D-CG技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：後藤 昌人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 3D-CG制作における基礎知識、ソフトの基本操作、モデリングに関する技術を身につけている。			
授業の概要 下記の基本操作とモデリングに関する基礎知識と技術を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト（Blender）の画面構成（メニューバー・各種パレット・操作などの説明） ・3次元座標系の説明（移動、拡大、回転なども含めた説明） ・プリミティブ、ブーリアン演算、ベジェ曲線、旋回・押し出しなど ・ポリゴンの自由な変形 ・素材の画像処理、テクスチャマッピングなど ・環境の各種設定（光源、背景など）、シーンレイアウト、カメラの設置、アニメーション 			
授業計画 第1回：導入（3D-CGの概要説明とソフトの基本操作説明） 第2回：モデリング（プリミティブ、ポリゴン変形、ブーリアンなど） 第3回：制作作業1（机と椅子のモデリング） 第4回：マテリアル設定、テクスチャマッピング、シェーディング 第5回：シーンレイアウト（光源設定、カメラの調整）、レンダリング 第6回：制作作業2（制作作業1のマテリアル設定からレンダリングまで） 第7回：応用（より複雑なオブジェクト設定、各種パラメータ設定による表現工夫） 第8回：応用（物理演算、UV編集） 第9回：自由制作（構想、モデリング作業1：基本形状の作成） 第10回：自由制作（モデリング作業2：ポリゴンの調整など） 第11回：自由制作（マッピング、ライティング設定） 第12回：自由制作（シーンレイアウト） 第13回：自由制作（レンダリング、データのアップロード、プレゼン準備） 第14回：作品鑑賞会（プレゼンテーションと講評）			
テキスト 常時アップデートされるBlenderのオンラインマニュアルを使用			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

制作作業 1 20%、制作作業 2 20%、自由制作 40%、プレゼン 20%

授業科目名： デザイン応用B（エディトリアル）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：遠藤 麻里 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標 DTPの流れを理解し、エディトリアルデザインについての知識を学ぶことで、デザイン力・表現力を身につける			
授業の概要 DTPソフト（Adobe InDesign）を使用するが、ソフトウェアの操作方法を学ぶだけでなく、読み手の視線や意図を考慮し効果的な紙面をデザインするスキルを身につける。最終課題として少人数グループで小冊子を作成する。グループでデザインを進める際の手法や、デザインを統一することの重要性についても理解することを目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス・デザインの基本 第2回：エディトリアルデザインの基礎（用紙設定・レイアウト・文字設定） 第3回：課題1 Illustratorでの制作課題1 第4回：InDesign基礎（文字組み・テキスト処理） 第5回：課題2 InDesignでの制作課題2（企画・インタビュー） 第6回：課題2 InDesignでの制作課題制作2（レイアウト作成） 第7回：課題2 InDesignでの制作課題制作2（調整・提出） 第8回：エディトリアルデザインの応用（スタイル・マスターの利用） 第9回：課題3 雑誌制作課題3（企画） 第10回：課題3 雑誌制作課題3（記事作成） 第11回：雑誌制作課題3（ラフレイアウト作成） 第12回：雑誌制作課題3（レイアウト作成） 第13回：雑誌制作課題3（製本） 第14回：プレゼンテーションおよび講評会 定期試験 なし			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価			

課題1 (10%) 課題2 (30%) 課題3 (40%) 授業への取り組み (20%)

授業科目名： 情報科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：長谷川元洋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領が目指す教育、情報科の目標について理解することができる。 ・情報科の専門的内容を高校生に指導できる力を身につけている。 ・指導案、教材を作成することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>情報科の専門的内容を高校生が理解できるように教えられるよう、演習授業を生徒の立場で体験した後に、教師の立場で模擬授業を行ったり、指導案作成を繰り返し行う。ICTを活用し、「主体的・対話的な深い学び」を実現する授業を実践する力の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導要領が定める共通教科情報科、専門教科情報科の内容、目標、授業目的・授業方法、学習方法、「対話的で主体的な深い学び」、評価に関する解説、授業の目的と目標の設定方法</p> <p>第2回：演習授業「情報の表現・2進数等」</p> <p>第3回：演習授業「基数変換・補数表現等」</p> <p>第4回：演習授業「論理演算・オートマトン」</p> <p>第5回：演習授業「データ構造とアルゴリズム」</p> <p>第6回：指導案（略案）、スライド、ワークシートの作成方法</p> <p>第7回：模擬授業「ハードウェア」「ソフトウェア」</p> <p>第8回：模擬授業「セキュリティ」</p> <p>第9回：模擬授業「システムの構成と方式」</p> <p>第10回：模擬授業「アルゴリズムとプログラミング」</p> <p>第11回：模擬授業「システム開発技術と監査」</p> <p>第12回：模擬授業「ネットワーク技術」</p> <p>第13回：模擬授業「データベース技術」・「情報セキュリティ・情報化と経営」</p> <p>第14回：試験とまとめ</p> <p>第15回：学習指導要領が定める共通教科情報科、専門教科情報科の内容・目標、全体構造について、観点別評価について、大学共通テストの問題について</p> <p>第16回：指導案作成演習（単元の目標設定） 深い学びを実現する授業をデザインするためのマトリックスの活用</p> <p>第17回：指導案作成演習（単元の目標の言語化）</p>			

<p>第18回：指導案作成演習（単元内容に関連する教材の研究）</p> <p>第19回：指導案作成演習（本時案の作成、ICTの活用、協働的な学習の場面設定をした指導案作成）</p> <p>第20回：指導案作成演習（ワークシート、授業スライドの作成）</p> <p>第21回：高校で活用されている学習ツールの効果的な活用方法</p> <p>第22回：模擬授業（基本的な授業技術の確認）（相互評価活動）</p> <p>第23回：模擬授業（発問技術等の確認）（相互評価活動）</p> <p>第24回：反省を生かした模擬授業（相互評価活動）</p> <p>第25回：新しい授業方法（質問作り「QFT」）の体験「題材：情報モラル」</p> <p>第26回：質問作り「QFT」の題材（QFOCUS）の設定の仕方と作成</p> <p>第27回：質問作り「QFT」の題材（QFOCUS）の発表と修正</p> <p>第28回：質問作り「QFT」の手法を用いた模擬授業（相互評価活動）</p>
<p>テキスト</p> <p>(1)かやのき先生のITパスポート教室 技術評論社</p> <p>(2)高等学校学習指導要領解説 情報編 文部科学省（PDF版 文部科学省のWebサイトからダウンロード可能）</p> <p>(3)高等学校情報科 教員研修教材 文部科学省（PDF版 文部科学省のWebサイトからダウンロード可能）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>指導案作成ハンドブック（PDF版 京都府総合教育センターのWebサイトからダウンロード可能）</p> <p>その他、インターネット上に公開されている参考資料、教材、指導案等</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>模擬授業への取り組み 30%</p> <p>作成した指導案、スライド、ワークシート等の指導資料 40%</p> <p>授業内試験 20%</p> <p>問題演習 10%</p>

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：原田琢也 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（高等学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけている。			
授業の概要 14回の講義の前半に、道徳の意義や原理、道徳性の発達、道徳教育の歴史、道徳授業の理論・方法などについて学習し、道徳教育を実践していく上での基礎を培う。後半には、読み物資料を使った授業やモラルジレンマ授業などいくつかの授業方法について学習し、指導案作成と模擬授業を体験する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：道徳とは何か——道徳の意義と原理 第3回：道徳教育の歴史 第4回：学習指導要領と道徳教育 第5回：道徳授業の基礎理論 第6回：読み物資料を使った道徳授業① 授業分析 第7回：読み物資料を使った道徳授業② 授業の構成 第8回：読み物資料を使った道徳授業③ 発問を考える 第9回：読み物資料を使った道徳授業④ 指導案作成（全体の構成、発問など） 第10回：読み物資料を使った道徳授業⑤ 指導案作成（導入、終末、板書計画など） 第11回：模擬授業① グループA・B 第12回：模擬授業② グループC・D 第13回：模擬授業③ グループE・F 第14回：まとめ、期末テスト			

テキスト

文部科学省『私たちの道徳』（中学校編）

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

模擬授業・指導案 40%

テスト 40%

コメントシート 20%